リステラス星圏史略
古資料ファイル
７－６－１
『 テラザニアの斎姫連 』
（没原稿）

（１９９１年）
（発掘整理一旦完了）

霧樹里守 is 土岐真扉
as
尊貴（とき）真扉（まさと）

（　献辞　）

敬愛する多戸雅之先生と、

わたしに環境意識（エコロジー）をおしえ、

生きかたを変える（さばくにきをうえる）力をくれた

グレンフォード・A・オガワ博士へ。

『テラザニアの斎姫連（さいきれん）』　あらすじ

『　テラザニアの斎姫連（さいきれん）　あらすじ　』　（@社会人～ひきこもり期？）　A^_^;）

2007年5月28日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

『テラザニアの斎姫連（さいきれん）』あらすじ

尊貴（とき）真扉（まさと）

~~稀代（きだい）の天才少女・セラ~~謎の天才少女セラ・レンと、~~美青年にしかみえない美少女キリアス~~相棒で男装が趣味という変態な美少女キリアスは、文明の発達した星間連盟（リ・スタルラーナ）の研究機関に所属する超能力者――気波使い（エスパッショノン）と呼ばれる存在である。

気波（きは）技術は、いまだ、~~伝説や神話~~おとぎばなしや迷信のたぐいとされている地球系の惑星連邦（テラザニア）で、隠れ棲んでいる仲間を探しだして資料を収集するという任務（しごと）の旅の途中、めあてのひとりが密輸組織《闇》の幹部だったことから、考えなしに警察の捜査の邪魔をしてしまった。
反省ついでに意地になり、一味の逮捕をてつだうと強引に協力をもうしでる二人。
赤毛の美人警部は怒りまくるし、お守りをまかされた新米刑事は胃痛をおこす。
偽名を名乗っているセラ・レンの正体（？）を知っているらしい大使ムベンガにかばわれて捜査本部にまぎれこんだはいいが、大使の側近で実は《闇》の仲間だった男との、気波使い~~の正体~~であることをかくしての銃撃戦でセラは深傷を負ってしまう。
単独で暗黒街にのりこみ情報屋をしめあげて一味の行方を探ってくる、もと宇宙帝国（ジレイシャ）ゲリラ戦士のキリアス。
宗教結社《祭連（さいれん）》の結界で、警察権の及ばない惑星《久別（くさば）》に逃げこんだと知ってセラ・レンはため息をつき、“連（れん）家の世良姫（セラキ）”の名で《久別》の首長に面会を申しでた。
そのむかし惑星連邦の成立に際してみずから解散の道をえらんだ地球上最大の部族国家、《灰色の一族》の、祭政一致の巫女であり気波使いの家系でもあった斎姫たち。
その、最後の女王でもセラ・レンはあるのである。
《久別》首長“皆無拓（カイムタク）”の承認を得て極秘理に潜入する連邦警察とセラ、キリアス。

いちおうFTのつもりなんですが
SFかもしれません

『紫昏の闇』あらすじ

『　紫昏の闇　あらすじ　』　（@1991.04.??）
2007年3月27日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

☆　『紫昏の闇』あらすじ

　セラとキルが占術師ライラを探して惑星ワンゼルランを訪れると、目指す家には星間警察が乗り込み、当人は犯罪結社《闇》の一員であることが発覚して高飛びした後だった。（次の情報を仕入れるために）惑星“大鼻”まで行く必要があるが、祭連船団通過の為に定期便欠航となっており、四日間の休養としゃれこむべく、極冠観光に出向く。氷河横断ツアーで現地休暇中のオッペル刑事のグループと出会い、つい盗聴機を仕掛けるキル。警察内部の連絡から記念式典のカラクリを知った二人は、変装の用意を整えて急ぎ会場に潜りこんだ。

　このところ世間を騒がせている異星産の幻覚装置の密輸現場を押さえるべくリスタルラーナ大使の護衛と称してその側近たちを星間警察は張っている。式典の会場である船は密室。接触の機会はこの時かぎり。万全の体勢を整えて待つ彼らだが、正体不明の民間人（少女）二人が一足先に不用意に近づいたため《闇》一味に疑いをもたれ、船をパニックにまきこんで見事に逃げられてしまう。
　公職登録の原則に基づいて救助活動にあたるセラとキルだが、《闇》の一味と誤解されてアリニカ警部補に逮捕されてしまう。連邦警察の支部のある惑星《大鼻》まで連行される途中も舞の練習を怠らないセラ。事情聴取と身元照合を受けて強制送還――という時に、わずか三日で司法職資格試験に通ってしまうセラ。大使ムベラの口添えを得て強引に捜査に参加する。

　一方、取引きに失敗した形のライラは影男に失策を責められて危い立場になる。が、本人は気にせず、影男の安全のために《白を青の二連星》を封じることにする。
　捜査活動の途中で襲われ、セラを傷つけられて激怒するキル。が、暗殺者のなかにワンゼルラン極冠ツアーで見た顔を見つけ（写真的記憶）、警察側の情報が筒抜けだったことを知る。「覚悟はあるんだろうな」と本来の非合法活動に転じて《闇》の下部組織をしめあげ、幹部の一人を星警につき出した。

　惑星《久別》は民族自治区で星警の手も及ばず、しかも祭連船団が訪ずれて二ヶ月の立入り禁止となっている。ためらったあと、“蓮家の世良姫”の名前で惑星首長“草家の皆無拓”に会談を求めるセラ。特別に祭礼への参加が認められ、潜入する星警特殊部隊。セラとキルはいちはやく姿をくらまし、祭連船団の奥深く、紫昏のライラと会う。影男との確執を洩らし、自首を誓うライラ。裁判での援助を約束し、やれやれ、と息をつくセラとキルだった。

了。

1.　（地球系）開拓惑星連邦（テラザニア

『　エスパッション外伝　・　紫昏の闇　（2）　』　（@1991.04.07.）
2007年3月23日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

☆　舞台

1.　（地球系）開拓惑星連邦（テラザニア）

　地球第二期文明の最終戦争後、一千二百年を経て統合された。
　『一惑星一政府、人工十億以下』を目標に急ピッチの惑星開発を進めており、物質的・技術的には必ずしも豊かではない。
　~~他選式の~~調整会議が立法を、~~自選式の~~調整局が行政を担当しており、特異。
　相互不干渉の特殊自治区等多く、前時代の弊害を多くひきずっている。
　“異星人”リスタルラーノとの国交を開始して18年になる。
　公用語は表意・表音文字の弊記方式。

2.　惑星“最外遠（ワンゼルラン）”

　歴史のごく浅い鉱山惑星だが、対リスタルラーナ交易路上の重要港となり、各界のおもわくが動いている。軌道上の小コロニーで開港10年式典が行なわれた。

3.　惑星“大鼻（ビッグノーズ）”

　第七辺境星域のなかでは歴史の古い開拓惑星。星間警察の出先機関がある。（暗黒街もある。）

4.　惑星“久別（クサバ）”
　　――『物質的な貧しさをあえて選ぶ暮らしは、精神的には豊かだ。』

　遊牧文化を固持する“草の民”の~~特殊~~民族自治区。灰色の一族の下層支族のひとつである。首長は草（ソウ）家のカイムタク（皆無拓）。

5. “祭連（サイレン）”船団

　技芸を生業とし、船団を組んでどこにでも出没する宗教的特殊民族。“久別”での祭礼期間中は連邦内でも特に出入りの難しい治外法権となる。“闇”と関わりが強い。

『　（メモの断片いくつか）　（1）　』　（@社会人～鬱こもり時期？）
2007年3月28日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)
9/2～9/8

褐草原のバンガ族特有の風土病レイヒア（遺伝特性？）

　大使　ムベラ・バンガ＝ロイシ
　妻　サディナ・バンガ＝ンディワナ
　娘　アレワナ・バンガ＝ロイシ

秘書官　バヘンガ・ザリ＝イディク

アリスのトランプチーム　直属のダイヤ
　？　パリス・ジェス＝オッペル
　2
　3
　4
　5
　6
　7
　8
　9
　10
　J
　Q　アリニカ・デュル＝セザール
　K　JOKER

「失礼、ライラ・ミタ＝マンデラ女史ですか？」
　少女がちいさく声をかけるより数瞬早く、《紫昏の》は、驚愕の表情で……

紫昏の闇
蒼黒の影
碧草高原
翠
黄金
朱
紅蓮の星船

登場人物：　主役2人と刑事と悪役の
舞台：　テラザニア辺境（対リスタ国境）
あらすじ：

サキの従妹にあたるセラ・レーン＝エラ、2歳下。
先天異状による病弱。気は強い。
※　シャーペンと色鉛筆のイラストあり。

自信ありげで元気で行動力があって、
知的で快活で上品ですらある。
※　セラに変装中のサキのイラストあり。

よくよく見ればたしかに喉ぼとけがないので少年ではないかもしれない。
※　キルに変装中のレイのイラストあり。

※　メモ紙の裏面（プリント面）にわざわざ
ちなみにこの紙は「0088」で仕事をしていた時のものであるっっ
とか、書いてあるし……☆　(^◇^;)”

コメント

りす
2007年4月27日23:43

……ちょっと待て。なんだこの検索は……？？　(^^;)？
『北斗の拳』に「ゼネッタ」なる地名が出ていたとは初耳だし、
ドイツの地名に「ゼネッタ」が実在するとは、それもちょっと、
かなり困った事態なのだが……★(-_-;)""""★

それより何より、「データファイル」なる謎の組織？（笑）に、
ウチの連中のデータが載っちゃってるのは、何故だ……??
？？？(^_^;)(^_^;)(^_^;)(^_^;)(^_^;)(^_^;)(^_^;)？？？

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋
Google ウェブ ゼネッタ の検索結果 9 件中 1 - 9 件目

りす・てらす・星圏史略 : BLOG第二章《ゼネッタとESPA》では、大体サキの超能力に関しての説明は終え、ゼネッタとESPAの現・実情について議論… ... ユウ・解放戦争 ゼネッタ社会の革命の歴史 ・ ラディの一生 日記の中からサキがひろいあげて発展させたもの ...
diarynote.jp/d/76519/_0_410.html

『 「癒えない傷跡」 設定資料 I 』… : BLOG帝国社会とゼネッタについて。 エスパッション組織の概略。 挿話……リアとオーダの生い立ち、2年前のサキとオーダの会見。 ... 第二章《ゼネッタとESPA》では、大体サキの超能力に関しての説明は終え、ゼネッタとESPAの現・実情について議論… ...
diarynote.jp/d/76519/20070203.html
[他、diarynote.jp内のページ]

「北斗の拳5」旅日記–第5回おいそこの男！そうお前だ、説明しやがれ。『ゼネッタの道具屋がこの扉には秘密があるって言ってたなぁ』そうか、行くぞ皆。 ゼネッタへ到着。聞き込みをするとその道具屋ってのはケッペルの事だった。んだよ、ペルネイルまで逆戻りじゃねーか!! え、何! ...
www2.odn.ne.jp/~cbn15680/hokuto5/h5_05.html

「北斗の拳5」旅日記–先代のネオというワケで殺気をみなぎらせてゼネッタへやって来た。道具屋ぁ！出て来いコルァァァア！ズドォン（←扉開けた） ... 扉の前にいた男に話しかけてみると「この扉には秘密があるってゼネッタの道具屋が言ってたなぁ」と教えてくれた。 ...
www2.odn.ne.jp/~cbn15680/hokuto5/f_index.html

北斗の拳GAMEゼネッタ／話す 14．アルパニア鉱山／話す 15．（フリークレセント）／アルパニア鉱石購入 16．（ペルネイル）／ケッペルと話す、義手入手 17．ゲシュラータウン・ゲシュラー城／ゲシュラーを倒す、マビィ救出 18． ...

www.linkclub.or.jp/~ksato/hokutonoken/hokuto_game/game_5.html

ドクター＆ナース編 15 動きはじめた世界（下）』 ーー深夜 ...「リナ先生って、本当は、オランダ出身なのね。17歳で、ハーグ大学医学部で博士号をとった後、米国のケント・ニールセン、ドイツのアンダーソン、ゼネッタを渡り歩き、2年前、お爺様に引き抜かれた。」 「探偵ごっこが好きみたいね、転職したら？」 ...
youko-16.hp.infoseek.co.jp/d15b.htm

2005年05月｜ぷらっとマノロと何とかゼネッタというのがヒット☆☆ んー。savin' moneyしたいんだけど、、、 そうそう、友人と別れてから表参道を歩いてたら、 看板 こんな店を見つけた！！！ 表参道で超地価が高いとこでたった3時間営業。 しかも、店の名が格好悪奴・・・・ ...
ameblo.jp/noanoa-of-coco/archive-200505.html

就職活動とインターンシップ情報のジョブウェブ 先輩からのアドバイス ...読み仮名が「ゼネッ」から始まる企業は以下のとおりです。 ゼネッア ゼネッカ ゼネッサ ゼネッタ ゼネッナ ゼネッハ ゼネッマ ゼネッヤ ゼネッラ ゼネッワ ゼネッガ ゼネッザ ゼネッダ ゼネッバ ゼネッパ ゼネッン ゼネッー ゼネッッ ゼネッャ ...
https://www.jobweb.ne.jp/naitei/company_kana_search.php?key=%A5%BC%A5%CD%A5%C3

データファイル InfoMode本 名 : シスターナ レイズ ゼネッタ解放軍独立戦士。SA能力者。エスパッションスクール生徒会役員、OBクラス 生 . 『 データファイル エリー 』(@高校 (りす・てらす・星圏史) (http://diarynote.jp/d/76519/). 本 名 : エリザヴェッタ アリス ドン= ...
infomode.hopto.org/doc/000006830.html

『　（メモの断片いくつか）　（2）　』　（@社会人～鬱こもり時期？）
2007年3月29日 連載（2周目・地球統一～ESPA）
。

1991.04.11.

エスパッション外伝・スランナート禍・？　紫昏の闇

時室真扉。

？　映画視点（エスパ当時の一般人向け）＋背景等説明
？　主人公・セラ、副主人公・キル（序列はつく）
？　テーマ・テラザニア現況におけるセラの行動と心理
？　ストーリー：紫昏のライラの逃亡と追跡

？　時、星史18年

※　NESICで「携帯」電話（当時の重量約2kg!!）の中継基地網設立の仕事（派遣）してた時にガメてきた裏紙使用……（笑）……というか、仕事中にメモった紙を、そのまま千切って持って帰って来たやつ……（^◇^;）……だと思うが……、
　いや、それよりはるか以前の、JR鉄道路線を使った電話網（第二電電？）の時のやつかな……？　を、使用☆

リスタルラーナ全権大使ムベラ・ザンガ＝ロイシ
黒人、75歳位、小児性マヒによる片肢不随意、
幼少時、バイラにたすけられる。
＞ラストでライラ逃走に協力。

蘭　蓮　草　花　++

《紫昏》のライラ。

おもてむきは惑星ワンゼルランの占術者。
“闇”の小幹部で、愛人として影男を育てるが、自分のシマが対リ航路として一躍浮上したため、追い落としを図られている。が、まあ、失脚してやってもよいと、余裕。“白と青の二連星”によって大きく運命が変わると予知しているが、読めない。故意の失脚を仕組んで最後に二連星と会うが、「自首する」つっといて逃亡。実は“闇”本人である。実年齢は100歳を越えている?!

影男――好が素直になったタイプ。のしあがりの欲求が強く、利用しようとして近づいた年上の愛人ライラは、家局のところ“オフクロさん”。

予知能力

予感（レイ）
――自分や身内の危機・運命等を漠然と察知する。
出来事の具体的な時間や内容はわからず、
「今、どうすべきか」がぱっと浮かぶ。

未来視（ライラ）
――ある人物・事件・場所等に関して意図的に
時間の経過する先を読む。
的中率は“占い”と呼ばれるものと同程度で、

関係する因子の多いものほど低い。
時間透視とも。具体的なてがかりと、
深い精神集中を必要とする。

過去視（サキ）

『　エスパッション外伝　・　紫昏の闇　（1）　』　（@1991.04.07.）

『　エスパッション外伝　・　紫昏の闇　（1）　』　（@1991.04.07.）
2007年3月22日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)

エスパッション外伝・紫昏の闇　**1991.04.07.**

~~時室真扉（ときむろ・まさと）~~
時渡真扉（ときわたりまさと）

☆　登場人物

1. セラ・レーン＝エラ と キリアス・ヤンセン＝エラ
（セラとキル）（18歳）

セラとキルは偽名である／公的には実在を認められていないエスパッション――超常能力――の法定データをとるために、リスタルラーナ屈指の科学者・ソレル女史の指示を受けて仲間探しの旅をしている／［占術者ライラに接触しようとしてバイラに関わり、星間警察の邪魔をしてしまったことから、スランナート事件の解決に協力（？）することになる。］

2. パリス・ジェス＝オッペル刑事 と アリニカ・デュル・セザール警部補

スランナート禍拡大のあおりをくらって警備部隊から転任したばかりの新任刑事と、その上司である捜査部いちの腕きき。密輸ルートのひとつとして対リ大使ムベラの身辺を張っていたが、セラとキルに妨害されてとりにがし。二手に別れて追跡を続ける。

3. ムベラ・ザンガ＝ロイシ、対リスタルラーナ大使（通商担当）
（調整会議員を兼ねる。）

小児性マヒで片足の不自由な初老の大使。博識でお茶目な人格者。補佐官のひとりに密輸の疑いがあると知り、内密で星間警察に協力している。“セラ・レーン＝エラ”の正体に気づいているらしいが？

4. 紫昏（しこん）のライラ と 影男（ゴーン・ラ）
（ライラ・ザタ＝マンデラ）

　犯罪結社《闇（バイラ）》の新首領である影男（ゴーン・ラ）と、孤児だった彼を育てた占術者・ライラ。おもてむき（？）“闇”の下層幹部であるライラはかつて影男の愛人でもあったが、現在はうとまれており、危い立場にある。
　実は200年を超える時を生きる、エスパッショニストである。

（去了（サリラ））

.

コメント

りす

2007年4月27日5:11

※　他人様からせしめたと思しい見慣れないレポート用紙に、
　　タイトルだけ。専門学校の授業中に書いたかな？(^^;)？

『　エスパッション外伝　・　紫昏の闇　（3）　』

『　エスパッション外伝　・　紫昏の闇　（3）　』　（@1991.04.07.）
2007年3月24日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

☆　固有名詞。

1．気波（エスパ）（またはリスタルランで気波（シ・エス））
＜シ＝名詞形）

　生体の発する固有の生命波動。時空間を超越しうる作用を持つ。
　意識的・無意識的にこれを操る者を気波使い（エスパッショニストまたはエスパッショノン）と呼ぶ。
　意味語の“キハ”は灰色の一族の用語であり、気波野（キハノ）（現民族自治区）に住む彼らは代々、気波使いである斎姫の集団によって統治されていた。

2．灰色の一族（アイン・ヌウマ）
（蘇衆（ソシュウ）・灰蘇衆（カイソシュウ）とも）

　最終戦争後、もっとも早く地上に戻った集団のひとつで、斎姫によって率いられた。人口は現在約二万だが、下層支族や、血縁はないが忠誠を誓う同系文化の他族を含めると六億七千万にものぼり、惑星連邦の7パーセントを占める。新族長たる咲巫（サクミコ）は後継を拒否してリスタルラーナへ留学してしまい、先代の遺言に従って同化政策が進められている。斎姫直系の者には“++（クサカンムリ）”の姓が多い。

　蓮（レン）家　　蘭（ラン）家
　　|　　|　　|
咲良姫（サクラキ）＝男　冴夢（サエム）＝ヨセフィア・アークタス
　　|　　|
　世良姫（セラキ）　　咲子（サキコ）
　　（咲巫（サクミコ）咲神（サクミ）とも）

『　エスパッション外伝・スランナート禍・**?**　紫昏の闇　（**1**）　』　（@**1991.09.09.**）

『　エスパッション外伝・スランナート禍・？　紫昏の闇　（1）　』　（@1991.09.09.）
2007年3月25日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

エスパッション外伝・スランナート禍・**?**

紫昏の闇　　**by**　時室真扉　　**1991.09.09.**

☆　構成；　**3**章**12**節　**100**枚！　はいらねーよ！

できごと順 or カットバック？

レイは地球を知らない！

1．紫昏迷走
~~（テラザニアの辺境民間社会）（セラとキル、紫昏のライラと星間警察）~~

・　ライラ、白と青の二連星の予知
・　セラとキルの行動説明。拝礼する老婦人。
（緑色の恒星ワンゼルラン～極冠ツアー。）＜キルの記憶能力
・　パーティーシーン。船上の式典～公職登録に基づいて
潜入するセラとキル。「非合法は嫌いなんじゃ――」
・　秘かに張りこんでいる星警部隊
・（式典前後のツアーは約10日間の密室／乗客千人）
（会談等兼ねる）
・　増加するライラの不安、部下への指示等。
・　~~“客”の一人、出歩かない？　＞セラとキルを見つけて動揺~~

・　ライラと闇部隊の逃走による船の破壊。ESP利用で沈火。
　~~銃撃戦。けがをするセラ。~~
・　医師もしくは操船要員として公職登録のあるセラ。
　急行した星警部隊にカツラをはがされてホールドアップ。
　二人の逮捕。

2. 蒼影揺動~~（テラザニアの歴史・政治機構）~~

・　星警の取り調べをうけてひらきなおるキルと泣きおとしのセラ。
・　舞いの練習をするセラ。強制送還直前に司法資格をとり、
　「公職」を逆手にとる。
・　ムベラ大使の護衛？　正体を知っているらしい。
　（セラのも闇のも）（側近＜やみの連絡員）
・　逃亡したライラと叱責する影男。
・　“闇”の背景説明？　ライラの恋。（母性愛とも）
・　ワンゼルラン極冠で見かけた男（側近）。発覚して銃撃戦。
・　セラがケガしてぷっつん切れるキル。暗黒街で独断行。
・　闇の行先を知って混惑する星警部隊。
・　自治区《久別》と祭連船団の説明
・　親地球家（リステラノン）の調査局員、セラに協力を要請。
　＝「良心に試える」（公職で足がついた☆）＞？
　（“彼女”はESPの存在を知っているのか？　＜yes.）
・　セラ、《久別》の皆無拓に面会を申し込む。

3. 白夜乱舞~~（テラザニアの歴史）~~

・　カイムタク、“セラ”の出現におどろき臣下の礼。
　キルの眉つりあがる。
・　《久別》――寒冷な草原星、自ら貧しさを選んだ人々。
・　祭連船団
・　極秘裡にバイラを追う星警プラス調査局。祭典のかげの捕物行。
・　セラとキル、ライラに面談。
　自首を誓うライラ。（ライラ・バイ・ライラ）
☆・（地球史の説明もしくは本物のセラ・レーン・エラ、もしくは）
　・ムベラ大使の正体判明？
・　「舞う」セラ。――？

ヤマが足りない!!

『　エスパッション外伝・スランナート禍・？　紫昏の闇　（2）　』　（@1991.09.09.）

『　エスパッション外伝・スランナート禍・？　紫昏の闇　（2）　』　（@1991.09.09.）
2007年3月26日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

☆　読者が持たなくちゃいけない疑問。

・　ライラはバイラなのか？
・　セラの正体と、二人の本名は？
・　この事件は、これからどうなったのか？
・　バイラの側に、他の気波使いはいないのか？

――等々。

Psy-che[saiki(:)]n.
1.　（ギ、ロ神話）プシューケー（Cupidが愛した美少女）
2.　[the [one’s] P～]霊魂、精神

psy-chic [saikik]
a.　霊魂の、精神の、心霊の、心霊作用を受けやすい、
n.　いちこ、みこ、霊媒。

――――――――――――――――――――――――――――――

＞　斎姫。　Psy-tech [sai-tek]

『　エスパッション・シリーズ　紫昏の闇（1）　テラザニアの斎姫連・梗概　』

『　エスパッション・シリーズ　紫昏の闇（1）　テラザニアの斎姫連・梗概　』　（@旧ワープロ、一太郎v4使用）

2007年6月3日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

エスパッション・シリーズ　紫昏の闇（1）

テラザニアの斎姫連（さいきれん）　梗概

尊貴 真扉（とき まさと）

序　章「　　」（三十枚）
……キリアスことレイのゴミ拾い。
主役二人と舞台の紹介。

第一話「照坐苑（テラザニア）」（五十枚）
……二人の目的。大体の展開予告。
セラことサキの正体不明。
アリーとパリス（星警）登場。

第二話「　　」（五十枚）
……セラとキリアスのESP証明。
レイの性別。テラザニアの公職制度（参加者制度）。

第三話「　　」（五十枚）
……ムベラ大使登場。セラの正体？
セラの天才性。事件の進展。

第四話「　　」（五十枚）
……セラ、負傷。
キリアス独走して情報入手。潜入不可？

第五話「　　」（五十枚）
……セラ、正体の半分。皆無拓に面会、特権発動。
惑星《久別》へ。

第六話「　　」（五十枚）
　……テラザニアの歴史。
　　ライラ登場、会談の後、自首。
　　セラの正体、地球の歴史。

　　ザイード・アル＝ハムラーア・レザン

序　章「迎夢者（げいむしゃ）たち」（二十枚）
　　キリアスのゴミ拾い。
　　主役二人と舞台の紹介。

第一話「照坐苑（テラザニア）」（五十枚）
　　惑星最涯到着。暑い。
　　ライラ宅訪問。星警とかちあう。
　　拝礼されるセラ。カツラを買う。
　　極冠地帯へ。

第二話「記念式典（開幕）」（五十枚）
　　式典開幕。潜入した二人。
　　理由は極冠地帯で爆破事件。
　　ライラ、逃亡。船体破壊。
　　気波を使う。星警に捕まる。

第三話「外交特権」
　　星警訊問シーン。レイの性別。
　　セラ、連行途中で資格取得。
　　惑星大鼻（ビッグノーズ）到着。
　　大使狙撃　＜セラが狙い。
　　セラ、負傷。キリアス情報入手。
　　皆無拓に面会、特権発動。

第四話「　　」

惑星久別（くさば）到着。本物のセラ。
捕物。ライラと会談、自首させる。

終　章「テラザニアの斎姫連」
テラザニアの歴史概括。
サキの正体と二人の会話。
舞のシーンでエンディング。

『　エスパッション・シリーズ　紫昏の闇　（1）　テラザニアの斎姫連（サイキレン）』

『　エスパッション・シリーズ　紫昏の闇　（1）　テラザニアの斎姫連（サイキレン）』　（@旧ワープロー太郎v4）
2007年6月3日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

エスパッション・シリーズ　紫昏の闇（1）
　　テラザニアの斎姫連（サイキレン）

1．照坐苑（テラザニア）
　先進文明のリスタルラーナ星間連盟から来たキリアスことレイ【主役紹介】はゴミ収集システムを目の当たりにしてテラザニアの参加者（ゲーマーズ）制度を学ぶ【舞台紹介】。
　相棒のセラ・レンことサキ登場【天才少女の紹介】。「研究者」と「研究材料」である二人の仲は微妙なところでうまくいってない【偽名の理由不明の紹介】。

2．頼等（ライラ）
　二人がこの星へ来たのは人探しのためだ。所属するリスタルラーナの研究所の任務で、潜在するESP（エスパッション／気波者）の実態調査と、新たな研究材料（協力者ともいう）の発掘が目的。
　宇宙港に一歩降り立った途端、あまりの暑さに圧倒されているレイ。不快指数が拍車をかけてセラ・レンに偽名の理由を白状しろと喧嘩をふっかけ、地理もわからずに飛び出して「1」の状況に至る。その間、探しに出る前に一仕事片付けていたセラはそうとう薄情と言えるのでは……。
　それはともかく二人は第一目標のライラのマンションへ行く。が、そこでなんと星間警察の家宅捜査にぶつかり、占い師として活躍していた彼女が実は犯罪組織「闇」（バイラ）の一員であり、逮捕寸前に逃亡したと知らされる。【アリーさんと部員たち登場】。

エスパッション・シリーズ　紫昏の闇　梗概
尊貴真扉（ときまさと）

1．「テラザニアの斎姫連（さいきれん）」（起）

2. 「スランナートの禍い」（承）

2–1. 「白と青」

ライラ、牢内で二連星の夢回想。

テラザニアの近代史？粗筋説明。

影男ことサリラ登場。

2–2. 「祈人群」

本物のセラ・レン登場。

久別に滞在中の二人の説明。

2–3. 「　　」

アリーさんスランナートを追う。

被害者としてメグミ（ESP）登場。

事件の説明。

2–4. 「　　」

ライラ逃亡の報。パリスとエムラン登場。協力要請。

久別草原の炎の回想。

2–5. 「　　」

ライラ？　闇の側の造反の動き。

3. 「　　」（転1）

3–1. 「　　」

地球……エリーさん登場。

3–2.

3–3.

3–4.

3–5.

3–6.

3–7.

4. 「　　」（転2）

4–1.

4–2.

4–3.

4–4.

4–5.

4–6.

4–7.

5. 「ブラインド・ポイント」（？）（結）

蘭（らん）家と蓮（れん）家はふたつながら斎姫（さいき）を輩出した家柄で

『　（メモの断片いくつか）　（3）　』　（@社会人～鬱こもり時期？）
2007年3月30日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

　蘭（らん）家と蓮（れん）家はふたつながら斎姫（さいき）を輩出した家柄で、資質を貴ぶあまり、近しい親族婚を繰り返し、それが故に不妊の傾向を強めてしまった、不幸な血統でもあった。

　照執里　（テリトリー）
　照里執人（テリトリー）
　照執領域（テリトリー）
　手裡戸里（テリトリー）
　照人領域（テリトリー）

ねこのて貸しま証／ねこのて借りま証　＜全然別のネタのメモ……☆

☆　セラ・レーン＝エラ（蓮（れん）家の世良姫（セラキ））
・　リスタルラーノのふりができる。（もと留学生）
・　とっさに令嬢ぶりっこができる。
・　首のつまった服装がキライ。
・　育ちのいいわりに言動が雑である。
・　旅をするのにお茶道具を持って歩く。
・　雲のような灰白色のふわりと長い髪。
・　バランスのとれた優美な曲線の肢体。
・　舞踊の練習を欠かさない。

☆　キリアス・ヤンセン＝エラ
・　どう見ても男にしか見えない体格。
・　長身で美形。（金色の眼、青い髪）
・　男装を面白がっている。

・　じつは地球人ではない。
・　暗黒街に片足をつっこんでいるゲリラあがり。
・　嗅覚が鋭敏で、香をたく。
・　暑さに弱い（極寒でもへーき）。
・　セラには優しい。

※　実は二人とも強力なESPである。地球の伝説上の“力”に興味を持ったリスタルラーナの科学者にひろわれて、お仲間探しの旅をしている。

　視、夢、姫、~~妃、祈、念、~~　等、名に多い。

“子”はふつう斎姫には用いないので、蘭家の咲姫、咲視姫と
呼ばれることも多い。

　《斎姫（サイキ）》――“本家”と呼ばれる血統が十いくつある。
　斎の資格を持つものは初潮から婚礼までのあいだ共同生活をする。
　最盛期は常時100人ほどいたが、末期は出産障害により
　12～3人にまで減った。

```
蓮　家　　蘭　家
　｜　　　｜　｜
　咲良姫＝〇　冴夢＝ヨセフィア
（サクラキ）｜　　　｜　｜
　　世良姫　咲子　サユリ
```

☆　公職登録　☆

　テラザニアにおいて、全ての成人は予備役の公職員として特技・等級などが登録されている。（資格試験等のデータが自動的に送られる。その他、自己申告の義務。）

臨時の公務（式典・天変地災の救援・通常の役員が急病の場合等）発生の際、“調整局”の要請によって動員される。拒否権はむろんあるが、“良識”としての協力が教育されている。企業等では一定枠内での有給として扱われ、別途必要経費として調整局から支払われる。

長期に渡り、かつ本人の同意が得られた場合は、そのまま恒常的な公職員にくり入れられる。兼業（有給のボランティア）の場合も多い。

（地球系）開拓惑星連邦＝テラザニア

統一の達成から30年あまり。太陽系内の開発は最終戦争以前から行なわれており、他の太陽系との接触・開拓は統一事業と並行して企業・部族レベルでも着手されていた。それら全てを植民地ではなく“調整単位（ユニット）”として認め、一惑星一単位を原則に開拓を進める。恒星十七、惑星及びコロニー群、地球上の民族区等で調整単位（小さいものは人口3000程度）は300あまり。

終戦以前からの継承技術としてワープ航法・惑星改造・生体工学等も持つが、各地での普及度はまちまちであり、かつ、“不必要な利便”は廃する方針（いまのところ余裕もないし。）である。

行政機関＝連邦調整局
立法機関＝連邦包轄会議
司法機関＝連邦星間警察

連　邦　憲　章
・すべての戦闘行為の放棄
・通商の公正（通貨統一）
・選択・移住の権利。

《エスパッション外伝》

セラ・レーン＝エラ,
キリアス・ヤンセン＝レーン,
紫昏のライラ,
星間連邦警察。

紫昏の闇――セラとキルは犯罪結社“闇”の占術者ライラを探す。

蒼黒の影
~~蒼の星玉~~――ライラは自首しなかった。

テラザニア
ツェキロニア

紫昏のライラ（ライラ・バイ・ライラ）

『　（メモの断片いくつか）　（4）　』　（@社会人～鬱こもり時期？）
2007年3月31日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)

　ふつうの人間よりははるかにとしをとるのが遅いようだが、さすがにもう容色の衰えは隠せない。自分を利用してのしあがったかつての少年が、うとましがって消そうとするのも当然とは言えた。

　ひとり分のスペースはトイレの個室より広いが、小さめのユニットバスより小さい。そのなかにカーテンで仕切る式の極限サイズのシャワーとトイレ、ソファ兼用の狭い寝棚と荷物置き場と洋服掛けに、机と電子端末と最低限の給茶設備に非常用の酸素タンクと発振器までがついていて、

☆　ライラは実はバイラであるが、~~影男は~~誰も知らない。（書かない）

☆　ライラは自首するつっといて~~逃げるが~~高飛びするが、
　　セラたちはしばらく気づかない。（書かない）

☆　影男は出てこない（名前だけ／バイラの最高幹部として）

紫昏のライラ（ライラ・バイ・ライラ）

犯罪結社・“闇（バイラ）”
　　＞　ロベルガ語（ゲロン）
　　＞　へたすると公用語よりも通用範囲がひろい。

コメント

りす

2007年4月28日0:59

　う〜む☆

　突貫工事で、「3月分」入力終了☆　(^◇^;)”　……なんか、
「夏休みの日記」を8月末にまとめて書いてる気がしてきた……

(^◇^;)

『　エスパッション外伝・紫昏の闇（仮題）　』　（@社会人／初代PC使用☆）
2007年5月30日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)

エスパッション外伝・紫昏の闇（仮題）

1

地球人類による開拓惑星連邦（テラザニア）が樹立されて42年。
異星人類（リスタルラーノ）の星間連盟（リスタルラーナ）との第一遭遇と、国交開始から18年。
第一期の官費留学生として星間連盟の最高教育機関（サリュート）に最年少で編入した記録をもつ天才少女、サキ・ラン＝アークタスは、18歳のいま、連盟内のとある研究所の研修士（レッセルノン）として、内密の調査をおこなうために惑星連邦の辺境星域を旅していた。
気波者（きはしゃ）あるいは気波技能者（エスパッショノン）と呼ばれるいわゆる超能力者は、地球から派生した文化圏のなかでは非人類（ばけもの）として差別と迫害の歴史を歩まされてきた。
科学と法制度の面からいえば現在でも彼らの存在は認知されていない。
保護と規制のためにはまず正確な実態を、というのが、地球連邦政府から政官連盟（リスタルラーナ）の研究所に依頼された調査内容だった。
開拓途上の惑星ごとに軌道上に気波の検知器を飛ばせて位置と人物を割り出し、目的を説明して本人の協力を請う。
問題は、特殊能力をもつ者たちがそれを隠したがっていることではない。
隠れて暮らしているひとびとを内密に訪ねてあるくには、ラン＝アークタスの名はあまりに大きいという点なのだ。
（こんなことなら地球人（だから目立たない）というだけで指名されたときに断るべきだった★）
似合わないカツラと濃色の度なしメガネの陰でためいきをついても手遅れというものだ。
十歳このかた天才児と科学者ばかりという特殊な環境で暮らしていたおかげで本人すっかり忘れていたのだが、歴史の教科書にも名前がのるような、救国の英雄ノリの半端でない有名人なのである。
ただしは、母親が、なのだが。
うりふたつに育ってしまった事実はいまさら変えられない。
均整のとれた長身だけは父方の血をひいたらしく、小柄だった彼女よりも十センチちかく高いが、白とも橙（オレンジ）とも象牙ともつかない微妙な肌はまぎれもなく母の属する一族のものだ。

　事故で左の視力を失ってそちらの眼球だけが銀ひといろに変色してしまったほかは、珍しい淡い灰（アッシュ・グレー）のふわいrと長い髪といい、同じ色彩のつりあがりぎみの大きな瞳といい。
　額のひろいととのった顔だちまで、十八歳もなかばのいま、鏡をみるとうんざりするほどに、似ている。
　（自分（わたし）は母の身代わりだろうか？）
　彼女はためいきをついてえんえん暗くなっていた。
　夭逝したサエム・ランの人柄はわずか6歳だった愛娘にも消せない影響をのこした。
　いまでもすべてのひとに惜しまれているのも当然のことだと思う。
　思うが、その神々しいほどの存在感をこちらに求められても、困るのだ。
　普通の一個人として暮らしたいというのは、地球圏では無理なのだろうか……。
　車窓にうつる顔をあいてにうらみがましい一人芝居を演じている少女を奇異に感じたか、
　「ねーちゃん、頭でも痛いのか？」
　となりの席の子供が首をかしげてのぞきこんできた。
　「え？　ううん、そんなことないよ」

.

コメント

りす
2007年5月30日1:10
え～っと、裏紙にプリントしてます。で、その裏紙には、

「日本移動通信株式会社御中
平成元年5月18日
日本電気株式会社
プ゜ロジェクト推進管理本部
本部長代理〇〇〇□□

　無線局（陸上移動局）免許取得届　　」

……とか、書いてある、わけです……☆　(^◇^;)＞”

良い子の皆さんは、派遣先職場のミスプリ紙をお持ち帰りして同人原稿の試し刷り用に使うような、わるいことをマネしてはいけません……☆☆

　(^_^;)d””

……あ、今、「8100」、踏んじゃった……☆　(^◇^;)”

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　1　』

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　1　』　（@社会人～ウツこもり～断筆期★）

2007年5月29日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

maruman Loose Leaf L796 20x20 ＝ 400字詰め原稿用紙、縦書き使用

(26枚目)

「だから第七惑星はいやだったんだ！」

井戸水で~~冷やして~~割ってある果汁をのみほして、サキはぼやいた。

「どういう意味だ？」

「親戚さんがゴロゴロいる」「極東草原系の移民が多いんだよね。部族単位で開拓してるから」

「それで、偽名なわけか？」

何度目かの質問にサキは黒メガネごしの上目づかいで応えた。

「――はい、誘導訊問は、おしまい」

「教えろったら」

「やだね」

帝国から連盟へ亡命したせいで戸籍がなく、いきおい密入国になるしかない自分はともかくとして。惑星連邦の出身者が里帰りして研究活動をするのに、発覚すれば即日決済で有罪になるという危険をおかしてまで、なぜ本名をいつわりたがるのか、レイにはわからなかった。

互いに黙ってしまったところへまもなくの発車をつげる放送がはいり、点検と挨拶にま

(27枚目)

わってきた車掌があいていた窓を閉錠してまわる。

大圏列車を利用できるのは原則として自主管理を誓約した市民だけなので検察は行なわない。

「うわー、まにあった、まにあった」

どたどたと駆けこんできた一団があって車両の人口密度はいっきにあがった。

「ここちょうどあいてますよ先輩」

「おい、ツマミこれでたりるか？」

「なくなりゃ途中で買えるって」

「なんでもいいから一杯いこうぜ」

ほとんど同時に喋りながら手荷物を収納庫にほうりこんでコの字型に仕切られた座席を占領し、折り畳みの小卓をひきだしておのおの大量にかかえこんだ酒肴のたぐいをわらわらとつみあげる。団体行動の統制のとれていること“運動部系の学生”かと思うところだが、男ばかり七、八人の、年齢はもう少し上だ。

「まったく祭連（サイレン）さまさまですねえ、ここで休暇がとれるとは」
発泡酒の缶をあける音といっしょにひびい

(28枚目)
た単語にサキとレイは顔をみあわせて苦笑した。予定外の氷河見物としゃれこむはめになった理由がおなじだったのだ。
「――じゃ、そういうことで、よろしく」
資料収集の第一号がいきなり犯罪者だったことを無時間通信で研究所に報告し、ライラについては逮捕後の保釈交渉にかけるしかないと、結論をだしたあと。
ゆくゆくはかくれすんでいる連邦の気波使いにも自然に暮らせる権利をというのが~~活動の~~サキが研究所にはいった目的でもあれば、犯罪に利用する者の存在が万が一おおやけになって世論にひびくのはうれしくない。
なんとか事前に打てる手はないものかと釈然としない相棒をしりめに、さして深刻ではない帝国人は暑熱の惑星から逃れられると喜々として、~~宿泊施設にそなえつけの~~端末をたたいた。
「たしか明日の便があったよな」
いちどみた数値情報は忘れないという特技

(29枚目)
がある。が、画面に出たのは欠航と満席の大行進。空調のきいた宙港内の宿泊施設も含め、四日後でなければ解約待ちの受けつけすらいたしかねますという状態。
放浪芸を生業（なりわい）とする特殊な宗教結社“祭連（サイレン）”が、めったにない大船団をくんで通過するため通常の運航がみだれているという。
「へえ……もうそんな時期なんだ」
録画の謝罪文を読んでサキがこころなし嬉しそうな顔になり、
「乗っ取り事件をおこしてほしいのか？」
機嫌が垂直な寒地人に脅されてあわてて探してきたのが“氷河と流氷・極冠でオーロラ色の三日間を”という地元民むけ小旅行の宣伝だった。
そして、発車を告げる十二音階の鐘がなる。
経緯0度の宙港都市から極点までは約五時間の列車の旅だった。

☆欄外に、惑星・宙港（大圏エレベータ）・地軸・赤道・黄道・
太陽光線の向き……の、図解あり。

ひとしきり飲みくいに忙しくて口をふさが

(30枚目)
れていた男たちが、二波めの缶や袋をあけにかかってふたたび騒がしい。

「祭連（サイレン）さまさまといえば、そろそろあれなんですね、聖域惑星《久別（クサバ）》の例大祭」
「そういやおまえは極東系だっけ？」
「血がもう薄れてますから聖域には入れませんけどね。それさえなければ任務（しごと）ほうりだしても参列したいんですけど」
「今回は取材も全面お断りだってんで従姉（イトコ）が嘆いてたよな、八年に一度の機会をって」
「まえに学術用で許可とったやつが一般公開されたっての、まだ尾をひいてんのか？」
~~「あそこの連中はガンコにできてるから」~~
「それより、アリニカ警部補は、無事に搭乗（のれ）たと思いますか？」
沈黙。
「パリス刑事――新任のあなたには解らないかも知れないが、あの女性（ひと）の心配は、するだけ無駄だ」
ぽんぽんと、わざとらしく肩をたたく音が車内にひびいた。
「めのまえに任務があるかぎり暗黒星の重

(~~33~~　31枚目)
力井戸からだって証拠をつりあげてくる――ちなみに実話だが」
「犯人逮捕で肋骨七本折ってもちっともこりないですしね」
「あの若さで持ち点ときたらオレなんかより一桁多い~~んだぜ~~、仕事の鬼で」
「調査中の現地休暇って、不眠不休が何日つづこうがゼッタイとらないひとだぜ。」
「しかもライラの行方はつかめてるってのに、このうえ彼女を足どめするのは、連邦総長でも不可能だ」
「席がとれなきゃ密航してでも隣の惑星《大鼻》にむかってます、と、彼らは口をそろえて断言していた。

「ライラの行方が？」
ぱくっと口をあけて少々まのぬけた顔をしているのはサキだ。
「つかめたって、言ったね」
「気がゆるんでるから情報がつつぬけだぜ」
にやっと笑ったレイはすでに気波感覚で探りをいれている。
睡眠学習のおかげでだいぶマジになってきた連邦公用語を思いだし、
「こういうのを、えーと、棚からボタボ

(32枚目)
タ？」
ぼたもちだってばと、少女は笑った。

漆黒の光（ひかり）発電塗装でおおわれた細長い円筒と、死角をつくらないための凹（おう）型反射鏡を優美な曲線の金属架がささえ、朝日を一番にあびる大圏管路線は地上はるかな高みをどこまでも直線にのびてゆく。
密封された円筒のなかで磁力と気圧差が列車に強烈な加速をあたえているが、人体や計器類に電磁波の影響がないよう、分厚い絶縁体でまもられた車両内部にはほとんど振動も伝わらず、窓の下を流れる眺望だけが移動の事実を伝える――近景はぶれて、ほとんど見えない。
「なんで空調しないんだ？」
熱帯特有の鮮やかな大洋をみおろしながら、うらめしそうに言うほうは決まっている。朝食のさいごのひとかけらを飲み下し、からになった容器類をひとまとめにしてねじりあげるのを慌ててとりあげて、
「え、入れてるよ、湿度ひくいだろ」

(33枚目）
と、サキ。
「まだ暑い」
「外気温との差がありすぎたら熱量の無駄だし体にも悪いでしょうが、途中駅で乗りおりする人だっているんだし。……待ってれば、極に近づくにつれ自然に下がるから」
「へえ？」
流刑地の雪原では生肉をたべて生きのびたおぼえもあるが、亡命して五年以上も星間連盟の管理されつくした空気のなかで暮らした。
なにもかも均一化されて無害な変化がなく、“文明”とはそういうものだと思っていたのだが。
「で、それはなにをしてるんだ」
「ゴミの分類」
穀物の茎の繊維からつくられるという薄茶色の紙袋をひらきなおして、レイが無雑作にいっしょくたにしたなかから天然素材のものと合成樹脂系と、左右の手にえりわけて持つと車両のはしにある回収容器まで歩いて捨てに

(34枚目)
いく。どちらも集めて燃料にするという。
「残った木製品（こいつ）は？」
「線名が刻印してあるから記念にもらってく人も多いけど、おなじ沿線ならよその駅でもひきとってくれるから、いらなければ洗って返してまた使ってもらう」
言いながら回収器にそなえつけの流しでゆすぐのを、うーんとうなって見ていた。
最初の停車駅で修学旅行らしい学生たちが小班にわかれて乗りこんでくる。
いっきに混みあった車内の誰もが市民の自主性とやらで動いているのを見れば、統制のきらいなレイといえども、あえて逆らう根性は湧かなかった。

四、

「で、優秀にして品行方正なる連邦市民どの」

いやみたらしい前置きからして背筋に悪寒がはしる。

「回線七〇–五二七五–七八七七」

(35枚目)

「なにが？」

眉をしかめたサキにもなかばの予想はある。

「“紫昏のライラ”の捜査状況」

つまり警察内部の情報網に割~~り込む~~侵入するための番号だと。むろん、パリス刑事とやらの個人の認識番号を読んでくるのも忘れていない。

「念のため盗聴器なんてものも~~念着~~とばしてきたけどな。連中、へべれけに酔ってるから、最新情報ならそっちのほうが確実だろ」

「ちょっと待て、それは非合法行為だって――」

さからうが、その手の操作に関しては前科がありすぎる。案の定、なーにをいまさらと鼻先で笑われた。

「~~連邦の謄本資料をかってに書きかえたよな？~~　他人の認識番号をかりて偽名をなのるのがテラザニアじゃ合法だとは知らなかったぜ」

理由を知らない腹いせの、ただの意地悪だが。

「孤独感から犯罪にはしったとやらの仲間（ライラ）がつかまるのは見たくないんだろ？」

(36枚目)

がるるとうなて端末にとりついたサキのそばの窓の外では極光がゆれていた。

テラザニア

ツェキロニア

「棚からボタボタ」

~~蘭　去里（サユリ）~~　＞　~~蘭　冴良（サエラ）~~

○　祭文

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　**2**　』

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　2　』　（@社会人～ウツこもり～断筆期★）

2007年5月31日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

『テラザニアの斎姫連（さいきれん）』

尊貴（とき）真扉（まさと）

着想　一九九一年　三月　十六日
改題着筆　　同　　四月二十六日
脱稿　　目標　　五月二十六日
げらげら！
と、書き込んであります☆

一、開国記念式典会場
二、惑星《最涯（さいはて）》にて
三、連邦警察第七支部
四、調整局員資格取得

五、大使の護衛と側近
六、祭連星域聖家紀行（さいれんせいいきせいけきこう）
七、紫妃（しき）・斎姫（さいき）・青鬼（せいき）

"The Psy-Tech Ladies of Terazania
presente by Toki，　Masato
with the party of "Oris-Kearan"

（「コクヨ　ケ–31　20×20」使用、シャーペン縦書き）

一、開国記念式典

星史十七年〇八〇三。
地球人の開拓惑星連邦（テラザニア）が異星人類の星間連盟（リスタルラーナ）と国交条約を結んで十七年になる。
国境惑星《最涯》軌道に位置する公易第七宙港は折しも任期満了で帰国の途にある対リス大使ムベナ・バンガ＝ロイシを迎えて、近隣星域中の著名人や高官がつめかけていた。
収容客数二千人を誇る加重力空間。
遠心力を利用する地球式宙居にしてはあまりに広いため床が弓なりに反（そ）ってしまう。
それを逆手にとって壁ぎわからでも顔をあげれば見おろせるよう設計された中央の壇上。
すらりと背筋の伸びて遠目にも美しい女性が、はりのある柔らかい声で式次第を告げようとしていた。
「“女史および博士がた（ソリ・セラ・ヴィ）”――おあつまりのみなさま。“本日はようこそ（リ・セーテ・エクセラ）”――本日はようこそ

「つまり紙一重（かみひとえ）だと？」
と、切り返したことのある彼女は、特別扱いを面倒がって必要に応じて情報を偽装する。
犯罪防止のために不可能なはずのそれを、片手でやってしまえる程度には、確かにずばぬけているのである。
あっさりした銀鼠色の礼装に、蘭の花束の緑と純白。欧亜（おうあ）混淆（こんこう）系らしい微妙な色調の肌に、砂漠民風の頭被いはややそぐわない気もするが、部族の服としてではなくおしゃれとして――？

淡い肌と~~黒い髪の~~民蔵風の頭被のとりあわせに灰色の服は地味
白桃色
桃白朱

鈍い銀色の衣装のうえに
白に近い純粋な灰色の髪が広がった。

茶褐色？（変装中のサキ＝セラのイラストあり）

<u>必然性か舞台効果か？</u>

茶乳色／乳紅色
白木に朱をのせた淡い肌色
黄桃色
朱白色

く飾っていれば鑑賞価値は高い。
似合うじゃないかと喜んで眺めるキリアスには、性別の自覚は皆無と言ってよかった。

豪華であるとも洗練されたとも言いがたいが、一生懸命飾られており、
貧しいテラザニア？

あたりは開港十年式典を祝う著名人や高官であふれている。惑星《大鼻》軌道に停泊中の航宙客船《蒼陽》の、収容客数二千を誇る加重力会議場だ。
誰それの挨拶が終わるたびにセラはにっこり微笑んで式次第を進行させる。
同じ~~セリフ~~意味の言葉を交互に繰り返す、流麗な連邦公用語（テラザニアン）と正確な星間連盟後（リスタルラン）。
堂に入った司会ぶりといい、知的で清楚な外見といい、やや年齢は若いが、彼女の本職が通詞でないとは、誰も思わないだろうが。
目あての人物を探して、あいまあいまに会場の四方へ視線をめぐらせる。~~目あての人物を探すのを忘れてはいない。~~
キルも同様。

シーン一、記念式典

act.I

周囲の参加者よりアタマひとつ抜きんでる長身の、鮮やかな青い短髪はたいそう人目をひいた。

紙のように白い肌。

冷たい黄色の両眼。

~~警備官の深緑の制服~~北方民族の立ち襟の深緑の衣装を身につけ壁際~~で不動の姿勢をとる~~によりかかって立つ美貌の青年。

着飾った婦人連~~は何か事故でも起きて口をきく機会はないものかとそわそわし、~~が入れかわり口説きもし、熱い秋波を送りもするが、~~気づかない風を装って~~無礼でない程度に冷たく断って、超然としている――かに見える。

よく注意すれば目じりに皮肉なシワがより、笑いたいのをこらえているのがわかる。

広い会場のむこう側、壇上にたつ相棒の反応がおかしくてたまらない。

呆れるというよりは怒っているような、憤然／憮然とした視線が、営業用の完璧な笑顔のあいまに~~ときおり~~飛んでくる。

無断借用した~~警備艦の~~他人の正装があまりにも

キルは性別の自覚のないスケベーなのか、セラをかあいがっているのか、それとも本来のレイらしく、いじめているのか？

☆　セラの礼装の意味はない。

生きた彫像のような無表情で美女の群れと相棒をまとめて煙にまきつつ、出入口すべてを視界におさめて獲物を待っている。

盛大な拍手とともに対リ大使ムベラが洒脱な説話を披露して退場し、セラが、式典の終了とそのまま懇親会へ移行する旨、はりのある声で手際よく放送する。

四方の通用口が開いて移動卓を押した接待官が列をなして入場。

豪勢な料理。

色鮮やかな飲料。

日頃は質実な食生活の人々がそちこちで一斉に盆や卓に群らがる。

　そのざわめきにまぎれて女性客がひとり、遅れて入ってきたのを二人は見逃さなかった。

~~　会場には三種類の人間がいる。~~
~~　純粋に記念日を祝っている一般客と、その~~

　そんな、犯罪者と正義の味方の動きを秘かに探りながらセラとキルは別の目的を持つ。
　《闇》（バイラ）の下層幹部、《紫昏（しこん）の》と二つ名をとる~~ライラ~~人物との接触。
　交渉し、応じてくれれば今日この場からの逃亡を助け、そのまま二人の属する機関で保護する、と。

　キリアスならずとも目を楽しませた美人な司会者が、高名な喜劇俳優にひきついで退場する。
　乾杯の声。
　笑い話にわきかえる会場に、待つほどもなく私服にあらためたセラが戻る。
　すらりとした姿体をひきたてつつ周囲にとけこむ地味めな正装で人の波をかきわけ、~~やはり警備艦の服を脱いだ――結局、いやがらせ以外の意味はなかったのだ――~~キルと合流する。
　「彼女だね？」

　宴（うたげ）はまさにたけなわで、開会と同時に参加者すべてが厳重な身元調査をうける。
　《闇》の下層幹部で今回の主犯、《紫昏（しこん）の》と二つ名を持つライラに。
　こちらの正体を明かし承諾が得られれば、この場からの逃亡を助け、そのまま二人の所属する機関で保護する、と。

手際の良い交渉はセラの方が適任だ。
~~キリアス~~キルは途中で警察の邪魔を入れぬよう、一歩さがって周囲に気をくばる。
高名な占術師として誰にも素顔を知られていなかった、やや高年の婦人は、濃色の眼鏡と同じ濃いスミレ色の長衣をまとい、黒髪をなびかせていた。
「失礼、ライラ・ミタ＝マンデラ女史ですか？」
少女が小さく声をかけるより数瞬早く、《紫昏の》は驚愕の表情でふりかえり、あえぐように――蒼白の頬で――言った。
「あんたたちは……」
「あんたたちだね?!」
「あの……？」
予想外の反応に、言葉をつぐ暇は、なかった。
女は結いあげた髪に手をやり、飾りの石をひきぬくなり床めがけて叩きつけた。

二人ともライラの顔を知らず、写真すらなかったが、隠す気もないらしい輝やくばかりの気波は、一目でわかった。
かたわらを抜きさりつつ確認のためだけにセラは言い、ああとうなずいてキルもあとを追う。
もとより交渉はセラの方が適任だ。途中で警察に邪魔されることのないよう、一歩さがって周囲に気をくばる。
「失礼、――（名前）――ですか？」
少女が声をかけるより一瞬早く、~~ライラ~~《紫昏の》は驚愕の表情で振り返り、あえぐように――数瞬の間ののち、言った。
「あんた達は……。あんたたちだね？！」
「あの、」
言葉をつぐ暇は、なかった。
女は結いあげた髪に手をやり、飾りの石をひき抜くなり床めがけて叩きつけた。

閃光。
空白。
悲鳴。
混乱。

（オークション？）

　取り引きの親玉の合図をうけて潜入していた密輸に関わる者たちは一斉に同じ光弾を放った。
　殺傷性はまったくないが視力の回復に数十分を要する。
　一時的に盲目となった何も知らない客たちが恐慌におちいる。張り込んでいた警察側とて、すでに役には立たない。
　騒ぎがおきかけたところへ、どんな仕掛けでか、遠くでたて続けの爆発音。
　ぎしり。と、厭な音を発して。
　広い会場に重力を加えていた船の回転柱が停止したらしい。
　斜めの衝撃。体重のなくなる感覚。
　続く数瞬で長い裳裾やずるずるの民族衣装の二千人は、かつてぜいたくな高さが自慢の天井だった無重量空間に、手に手をとって舞い散っていた。
　~~料理の大皿があとを追い、シャンパングラスがかつて申味だった不定形の液体とからまりあって飛んでゆく。~~

　シーン二、惑星都市

　星姫（セライル）と新月騎士（キリアス）というありがちなとりあわせは偽名である。
　本名はこの際おく。
　問題は、なぜ今回の旅で名を伏せて行動しなければいけないのかキルは知らない、ということだった。
　言いだしたのはセラで二人の上司である人物もすんなり承認した。
　一連の偽造手続きもあっという間だったのでロクに問いつめる機会さえ逃がしているのだが。

　時に星史十七年〇八〇三――☆

~~―時に星史十七年〇八〇三。既知の宇宙には三つの国家がある。~~
~~―文明が発達しすぎて停滞のはじまりかkた星間連盟（リスタルラーナ）。~~
~~―貴族と奴隷階級の相剋の続く宇宙帝国ジレイシャ。~~
~~―そして、成立していまだ半世紀に満たない開拓惑星連邦（テラザニア）――旧称・地球統一政府、である。~~
~~―三年前に遭遇したばかりのジレイシャとは実質的には軍事力の探りあいという危うい開国―~~　あまり詳しく書かない。

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　**4**　』

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　4　』　（@社会人～ウツこもり～断筆期★）

2007年6月2日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

（※「コクヨ　ケ……」の「裏紙」利用。シャーペンで縦書き、ものすごい殴り書き☆）

（4枚目）

耐えられるのはたしかだが、滞在予定は未定であるし、大気中の水分はゼロにちかい。

「なんで市街地の空調　……

……やっぱ、あまりにも判読困難なんで、
アップするのは、やめておきます……☆

(^◇^;)(^◇^;)(^◇^;)(^◇^;)”

だってこれ、
手書きの殴り書きの第一稿（？）だけで26枚もあるし、
同人誌既発表の完成原稿が、どっかにあるハズだし……☆

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　5　』

『　（テラザニアの斎姫連）　没原稿（手書き＆書き直しの嵐の草稿群）　5　』　（@社会人～ウツこもり～断筆期★）

2007年6月2日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

（※青い和紙風背表紙の大学ノート型原稿用紙にシャーペン縦書き）

『テラザニアの斎姫連（さいきれん）』
――夢を迎える者たち――

尊貴（とき）真扉（まさと）

着想　一九九一年　三月　十六日
改題着筆　　同　　四月二十六日
第一稿　　目標　五月二十六日

"The Psy-tech Ladies of Terazania"
presented by Toki，　Masato

○、紫昏迷走

白と青の二連星――
それは、予知だった。
ひとを数倍する永い生をへてきたライラは、~~それでも、~~おのれの最期の時を知~~らされた~~知った者の怖（おび）えで震えながら目を覚ました。
それではとうとう終わりがくるのだ。
終わりのはじまりが。
白と青のふたりが訪れるとき、すべては動きだす。

佳（よ）いほうへか、
悪いほうへか。
世界全体のことなど、じぶんのあずかり知らぬことではあったが。
まだ、だ。
あたしにゃ、見届けておきたいことがある。
冷たい汗にぬれる体をビロードの寝台からひきはがし、としおいた褐色の美貌に~~こずるい~~年齢にさまたげられない生気に満ちた微笑をうかべると、――夜の、明けきる前、わずかばかりの荷物をまとめ、豪奢な部屋のすべてを捨てて、
ライラは、逃げた。

~~一、序章~~――式典開幕

星史（せいし）十七年〇八〇三（ぜろはちぜろさん）。
地球人の惑星連邦テラザニアが異星人類の星間連盟（リスタルラーナ）と国交条約をむすんで十七年になる。

国境恒星系《最涯（さいはて）》軌道上の公易第七宙港は、折しも任期満了で帰国の途にある対連盟大使ムベンガ・ラナ＝ロイシをむかえて、近隣星域中から著名人や高官がつめかけていた。
収容客数二千名をほこる加重力集会場。
遠心力をつかう連邦（テラズ）式宙居にしては広すぎるために床が~~半球状~~凹形の局面になっている。
それを逆に利用して壁ぎわからでも顔をあげれば見おろせるよう設計された中央の壇上。
すらりと背すじが伸びて遠目にも美しい女が、はりのある声で式次第を告げようとしていた。
「女史および博士がた（ソリ・セラ・ヴィ）――おあつまりのみなさま。本日はようこそ（リ・セーテ・エクセラ）――本日はようこそおいで下さいました」

幾人か列席している連盟人（リスタルラーノ）に敬意を表し、また開国記念ということから、かならずはじめに連盟語（リスタルラン）を、つづけておなじ内容の連邦第一公用語をと、一文ごとにくりかえす。連邦主催の行事における公式礼法のひとつだ。
第一以外の公用語か少数部族語しかわからない参加者のためには個別に通訳がはいるから、そのための時間差も計算にいれてゆっくりただしく。
語学と儀典法の二本立てで難関とされている司会者資格の一級を持っていた彼女は、しかも開会のあいさつから終了後の余興まで二十いくつの演目を、メモひとつ見ずに正確このうえなく伝達してのけた。

「時間につきましては一応……となっておりますが、こればかりは御挨拶をいただく先生がたの、おきもちしだいでございますので」
予定は未定とさせていただきますと茶目っけたっぷりにつけたして聴衆の笑いをとったのは、ひとりふたり、広長舌（ながばなし）で知られる大学教授がいたからだ。
つられてまだ苦笑している宙港総長が話者の一番手として立ちあがり、記念式典は本格的にはじまった。

臨時で公務についているしるしの、緑の連邦記章にはセラ・レン＝エラ。――ただし、偽名だ。

二、無重力騒動

無差別投票でえらばれるテラザニアの公職員には講演上手が多い。
だというのに舞台からいちばんはなれた壁に無法者よろしく背をあずけ、退屈そうな視線をあたりになげていた。
紙のように白い肌。冷たい黄色の目。
はやりの鮮やかな青に染めたみじかい髪の前だけななめに流し、おなじ色彩の衣装できめて絵の具が三色あれば肖像画が描けますという極端な外見をしている。
周囲からあたまひとつぬきでる長身。
北欧系にしても高すぎる鼻稜（びりょう）がどこか特異だが、整った顔だちはひとめをひく美貌だ。
つつがなく祝辞のすすむあいだはそれでも遠まきにざわめかれているだけだったが、閉会の辞がおわるころには着飾った女性軍がわれさきにとすりよってきていた。
「キリアスとおっしゃるのね。すてきなおなまえ」
参加者みながつける胸の名札をよみとって、化粧美人がうっとりした声をだす。
こんな美青年をこのあとの祝賀会のあいだひとりじめできたらどんなに気分がいいだろう。
とりかこまれてあれこれ話しかけられるのをキリアス・ヤンセン＝エラはしばらくのあいだうるさそうに無視していたが、
「おひとりでいらっしゃったの？」
「いや。相棒が――ああ、もう来るな」
講演者が退場していく舞台をばくぜんと示してそう言い、意地の悪い笑顔をそちらへ投げたかと思うと姿勢をただして、愛想よく御婦人がたのお相手をつとめはじめた。
「まあっ、どなたですの」

さては著名人の息子かなにかだったのかと~~かってに期待して~~さらに盛りあがる一団。
つかつかと割りこんできたのはさきほどまで中央壇上で司会をつとめていた人物だった。
臨時で公務についているしるしの深緑の連邦記章にはセラ・レン＝エラ。
あっさりした銀鼠（ぎんねず）の礼装には飾りといえば純白の蘭だけで、祝いの場所にしてはま~~わりの華やかさとくらべれば~~ずいぶん地味なのだが、信号のように目立ちまくるキリアスと向きあっても、上背のある優美な姿態はけっして見劣りしない。
知性的な面差しに欠点をさがす根性は、色気に満ち~~た女豹~~美女のむれにも持てないようだった。
欧亜混淆人種らしい白木に朱をのせた微妙な肌に、やや重いとりあわせの、おさまりの悪そうな濃褐色の髪。
星のような灰色の瞳はさもいやそうに相手の服をながめおろして、
「男装（それ）はやめろと何回言ったっけ」
けっこういい家のお嬢のわりに粗雑な言動なのは、~~同室の~~ひとつ部屋で旅をつづけるキリアスの悪影響にほかならない。
「趣味だぜ、勝手だろ」
「同性にもててなにがおもしろいんだっ」
「あんたの厭がる顔」
「～～～っ」
たしかに、知らずに見れば細身の男性、それも特上の美青年としか思えないが、よくよく観察すれば立ち襟のなかの細い首に喉ぼとけはないようだ。
あっけにとられる十人ばかりをおきざりに、怒ったセラ・レンは相棒の耳をつかんで曳きずり去った。
~~こんな人間と一つ部屋で旅をつづける不幸な友人が異性と知りあう機会に不自由したとしても、責任をとってやるつもりは、もちろんなかった。~~
~~式次第はつつがなく終了してそのまま祝賀会となる。~~
歴史が浅い連邦国家の低い税率からの予算であれば豪華であるとも洗練されたともいえないが、四方の通用扉があいて~~接待係が可搬卓をおしてくると~~料理がはこばれてくると薄給な為政者達は無邪気な歓声をあげた。
新年と連邦誕生日につぐ年中祭事だ。
食べて飲んで、楽しんだものの勝ちである。
その素朴で陽気なさわぎにまぎれて女性客がひとり、遅れて入場したのを~~キリアスは~~ふたりとも見逃~~さなかった。~~していなかった。
うずをまく黒髪とほの白い肌の、堂々たる姿態の婦人。
高年にしては若々しく華やかな紫と銀糸の絹をみごとに着こなして、今日の主賓であるムベナ大使をかこむ一団へさりげなく近づいてゆく。
セラもキリアスも《闇》の幹部ライラの顔を知らず情報すら得られなかったが、現われた瞬間にひとめで判った。

まぶしいほどの紫光の気波（きは）だ。
これほどの潜在力とは思わなかった。
むろん普通の人間に視えはしないから隠すつもりもないのだろう。刑事たちに気波司（きはし）の素質がなくて助かった。と、考えるうちに、~~セラが軽い足どりで人波をぬけてやってきた。司会役を高名な俳優にひきついで記章と蘭の花をはずしてしまった銀鼠（ぎんねず）の服はあっさりしてずいぶん地味だが、孔雀のように目立ちまくるキリアスのとなりに立っても決して見劣りしない。~~
「――彼女だね？」
かたわらを抜きさりつつ確認のためだけにセラは言い、
ああとうなずいてキリアスもあとを追う。
時間は、あまりなかった。
密輸組織《闇》の取り引きが今日この場で行なわれるとの確証を星間警察はすでに把んでおり、要員も相当数、~~すでに~~潜入している。
宴（うたげ）はまさにたけなわで、閉会と同時に参加者すべてが厳重な身元調査をうける。
《闇》の下層幹部で今回の主犯、《紫昏（しこん）の》と二ツ名をもつライラにこちらの正体と条件を説明し、承諾が得られれば、この場からの逃亡を助けてそのまま二人の所属する機関で保護する、と。
手際のよい交渉はセラのほうが適任だ。
~~キリアスは一歩下がって警察の邪魔がはいらぬよう、周囲に気をくばる。~~
「ライラ・ミタ＝マンデラ女史（さん）？　ちょっと内密でお話が」
「――あんたは……あんたたちは……！？」
その瞬間、彼女は自分の予知の正体を悟ったのだ、とは、二人に気付くすべもない。
大使一行と談笑していたライラがぎくりとして不審げにふりかえろうとした瞬間。
「そこまでよ。手をあたまのうしろで組んで、足をひろげて」
銀色の銃を少女の背につきつけて、赤毛の女が断固とした口調で言った。
「連邦星間警察です。密輸および麻薬類不正取引きの現行犯として連行するわ」
「ちょっ……と待って。なんでわたしらがっ」
あぜんとして云いかえすのへ左手がのびてカツラをむしりとる。
「こんな変装くらいでごまかしたつもりなの？　刑事の記憶力をなめないでよね。」
「痛ーったたたっ……」
セラが、悲鳴をあげる。
濃い銀鼠の服のせなかに、白にちかい純灰色の髪が、月下の滝、星月夜の瀑布（ばくふ）のように、ながれておちた。
いつのまにかまわりは私服刑事らしい一団でかためられ、ほかならぬムベンガ大使までが、「失礼」とか呟やいて取り出した銃を、ライラに向けている。
「てて……。これは、もしかして」
涙のうかんだ目で連盟（リース）側の犯罪組織とまちがわれたかとあきれているセラに、

「らしいな」
と、はやくも気をとりなおして事態を楽しみはじめたキリアスが、皮肉な笑みをうかべた。
よこあいから紫昏のライラをかすめとる心算（つもり）で、どうやらどつぼにはまったらしい。してみると本当の取引相手がどうでるかと好奇心もはたらくが、とりあえず、反応したのはものほんの犯罪者である《闇》の幹部のほうが早かった。
おとなしく手をあげるふりをして髪飾りの石をぬきとり床めがけて叩きつける。
光弾が、炸裂した。

~~三、無重力空間狂詩曲~~

閃光。
空白。
悲鳴。
混乱。

首領の合図を受けて、場内に散っていた密輸犯たちは一斉に光弾を放った。
殺傷性はまったくないが、気力と視力の回復に数十分を要する特殊な武器だ。
一時的に盲目となった客たちが恐慌におちいり、
張りこんでいた警官たちとて、すでに役には立たない。
追い討つように遠くでたて続けの爆発音。
ぎしり。と、厭な音を発して。
惑星《大鼻》軌道に停泊中の航宙客船《蒼洋》は、加重力用の回転柱を、止めた。
斜めの揺激。
体重のなくなる~~一瞬の~~数秒間の、めまいに似た感覚。
続く数秒で長い裳裾やずるずるの民族衣装の二千人は。
かつて奢侈を誇る高天井だった無重量空間に、手に手をとって舞い散っていた。

料理の大皿があとを追い。
酒びんが中味をまき散らして飛んで行く。
目は見えないながらも皮膚感覚で一張羅に起きつつある惨事をさとり、女性たちが~~断末魔のような~~悲鳴をあげてもがきまわる。
ぐずぐずしていて渦巻く酒類だの踊る鮮魚の活け造りだのとお近づきになりたくない。
~~常人離れした回復力で視力と気力をとり戻し、~~あたりの悲喜劇を冷ややかに鑑賞したキルは、素速く気波の壁を張り、細かな浮遊物を避けつつ手近に来た大卓を片手でつかまえた。
振り出した反動でまっすぐ出口を目指し、扉の近くの、“床”にとりつく。
最初の光弾からわずかに二分。
常人離れした対応力である。

右腕でかかえているセラは、もちまえのカンのよさで突嗟に顔をかばったとはいえ、至近距離で直撃を受けて半ば~~気絶した状態だ。~~失神している。
まだ見えていない大きな目~~からパタパタ涙をおとして~~を見ひらいて、ぶつくさ言っている。
~~「どおして……？！」~~
~~二人は《紫昏の》に会ったことはなかった。~~
~~当然彼女もこちらを知らないはずだ。~~
~~それが、顔を見たとたんのあの反応。~~
~~ちょっとあんまりではないかと茫然自失。~~
緊急放送がはいるのを聞いてようやく気をとりなおすというあたり、実戦には向かないやつ、と、野戦兵士あがりのキリアスは黄色い目で苦笑した。
（いきなり戦闘体勢？）
「あーくそ、もうっ」
~~セラが言う。知的な顔だちに似合わない悪舌だ。~~
二、三度まばたくと意志の勝った灰色の瞳に強い表情がもどる。
ただしキリアスほどの生体回復力は彼女にはない。
眼球と視神経は機能を停止したままで、副次的な知覚を作動させている。
いわゆる透視というやつだが、とりあえず動くのに不自由はない。
~~「どうする？」と、キルが尋ねた。~~
「追おう」
「ちょっと待って」
《紫昏》と闇の一味は会場からとっくに姿を消していた。
すぐに追えば船外へ脱出する前に捕まえることもできるかもしれない。
すくなくとも、この機を逃したら再度探りあてるのは至難のわざだろう。
~~キル一人なら迷わず追跡する。~~

全艦放送が破壊工作の発生と応急人員の不足を告げ、必要な職能とそれぞれの行くべき所を列挙している。
政府予算の少ない開拓惑星連邦（テラザニア）に独特の、全市民？臨機応変に民間人を行政に組みこむ公職登録制度の発動である。
二人の現在地は医師および無重力救助経験者の急行先として指定されている。
この場で仕事を見つけてもよいのだが、セラは航宙士や宙船整備工の資格も両手にあまるほど持っており。
一方で。

キル一人なら迷わず後者をとった。
自分の身も守れない役立たずに手を貸す趣味はない。
しかしここ（テラザニア）はセライルの古巣だし、主導権がそっちにあるのは認める――と。

一単語の質問から言外の含みまで正確に読みとって、あまりのらしさに少女は苦笑した。
キリアスの性格は仲間の一人から「律儀で無愛想」と評されている。
すぐに真顔に戻って繰り返される放送に注意を集中する。
航法室・動力炉ともに人員を要求し、二千人の乗客高官や著名人がが無重力に溺れている会場へは有資格者ではなく“経験者”だけを振り分けているということは。
思ったより事態は深刻らしい。
どうも、面倒なことになってしまった。~~相棒のうす青く視える気波壁から身をはなして自信の真珠色の気波を張った。~~
~~「損害状況を。」~~
~~調べようと後半は省略して会場から泳ぎ出す。~~
よみとったセラは数瞬、考えていたが、「航法室へ」と強く言って会場から泳ぎ出した。
逆に急行してくるのはほとんどがセラと同じく連邦記章をつけた臨時の有志公職官で、それもそのはず、乗客と非番の乗員のほとんどすべては、会場に集まっていたのだから。（船内は無人に近い）

連行されかけて、「それ、女です！」

四、連邦警察第七支部

暫減した部下たちの残りをかき集めて逃走する犯人一味の追跡にあてたがまんまと逃げられ。
かろうじて捕えた二人組はどうやら民間人でこちらの誤解であるらしい。
大使ムベンガの無事だけはいちはやく確認されているのが不幸中の幸いというべきだったが、宙港都市の被害が大きく人員を救助活動にふりむけねばならなかったため、捜索活動は中断。
上司であるアリニカ警部補――たいそうな赤毛の美人――の憤怒の形相に、新任のパリス刑事はおそれおののいていた。
新任といっても連邦警察警備部隊では五年間てがたく勤めた中堅どころで~~ある。~~アリニカより年は上である。
このところ広域化の一途をたどる密輸幻覚剤事件のあおりをくらって捜査本部の応援にまわされたが、聞きこみや情報検索に必要なカンどころがいまいちつかめない。

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　1　』　序章・テラザニア

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　1　』　（@ウツこもり～統合失調で断筆期まで）

2007年6月2日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

敬愛する多戸雅之先生と、

わたしに環境意識（エコロジー）をおしえ、

生きかたを変える（さばくにきをうえる）力をくれた

グレンフォード・A・オガワ博士へ。

エスパッション・シリーズ　紫昏（しこん）の闇（やみ）

テラザニアの斎姫連（さいきれん）

土岐 真扉（とき・まさと）

序章・照坐苑（テラザニア）

つよすぎる陽光は影絵のように世界を切る。時刻をあらわす計器だという機械仕掛けの長いほうの指針が二周ほどするあいだ、なにをするでもなくレイは木陰にへたりこんでいた。

ここは公園、と呼ばれる区画らしい。

たたきつけるような恒星の直射と、暑熱にからだの溶けそうな街路を逃れて、どこか一休みできる場所をと尋ねて教えられたのがここだった。

しかし……休息と涼をとるのが目的の施設を、密植された樹林が太陽を遮（さえぎ）るとはいえ気密性のまったくない屋外につくるとは。科学の進みすぎた星間連盟（リスタルラーナ）に籍をおく人間としては冷房装置が恋しくて、理解に苦しむ。

空調技術がないわけではないのに、地球連邦人（テラザニアン）の発想は、どうなっているのか。
とはいえ、黒にちかい濃緑の葉を透かして白金色のひかりが躍るさまは確かに美しかった。
大樹のえだの奥ふかく、砂土の地面にじかに腰をおろすというのも珍しい体験だ。
たぶん呼気の成分調整や温度管理の効率などよりも、そういった心理面への機能を優先して設計された空間なのだろう。
当たらずとも遠くはなさそうな推論をはじきだして疑問を消化する頃には、最低だった精神状態もかなりの回復力を発揮していた。
つまるところ、育った世界がこれだけ違うのだ。解ってたまるか、ばかやろう！と。意志の不通のいいわけは文化の相違におしつけて、ひらきなおるに限る。
遅めの朝食のさなかに相棒と喧嘩をはじめて飛び出したのだから、そろそろ昼だ。容赦のない日光はこれでもかとばかり大地に暗黒を縫いつけている。うすぐらい樹陰にいると外界はまるで白日夢のようだ。
なにやら賑やかな一団がやって来るのも、はじめは声しか聞こえない。小径をゆくのを眺めていると群青に朱線の混ざった鮮やかな制服姿の男たち。めいめい手にさげた小さからぬ包みは、やがて向かいの樹下に敷物をひろげ、車座のなかに繰り広げるにいたって、豪華きわまりない弁当だと知れた。
「……大食……」
ひとりあたりの量と栄養価をおもわず目算して呆れる。とりたてて儀式や挨拶らしいものもなく一斉に食べ始めるのを見れば、祭事や祝日でもなくふだんの献立なのだろう。暗色の肌や彫りの深い顔だちとあいまって、だれも痩身にみえるが、あれを毎日たべて体形を維持するとなると、どれだけの運動量をこなしているのか。
運動……いや、〈労働〉か。
機械を使わない人力の作業に手間暇（てまひま）かけたがるのは連邦制を否定している小数民族に多いと聞いた。だとすると、色鮮やかなそろいの衣装は一族固有のものだろう。そういえば来る途中で地下通路の簡易舗装をモザイク模様の細かい敷石に張り替えているところを、高温で朦朧としながらだが見かけた記憶があった。
みるみるうちに食物の小山はへってゆく。それを見ていると自分も空腹を、覚えるかといえば、このクソ暑いのに食欲のあるほうが信じられない気分だが。
生命力旺盛な地元民たちは快食快眠を実践し、食べ終えるなりごろりところがって公共施設のなかだというのにどう見ても熟睡している。
かなりたってから、起きだした彼らが向かった先に、〈護美箱〉と書かれた備品があった。不用品の集積場だが、むろん分子分解機に直結などしていない。ただ入れておくだけの容器である。
その前で彼らはすこし、揉（も）めているようだった。年の若い、ひとが良くて気の弱そうな男がなにかを主張し、年輩の者たちが軽蔑するような笑みで否定の方向に首をふっている。
「我らは部族民だ（ノ・グ・マー）。ゆえに我らに従う義務はない（ガ・ノ・ガ・ミ）。」

ことばが解れば最年長らしい老人の吐きすてたセリフは聞きとることができただろう。
時報、と呼ばれている合図の鐘が鳴った。
男たちは慌ただしく去り、乱雑に投げ込まれた食べがらが容器からこぼれ落ちていた。

☆

昼の休憩時間が終わったということなのか公園から人がいなくなる。とはいえ午後の灼けつく日ざしのなかでは動きまわるにも気力もない。夕暮れまで待とうと覚悟を決めて、けだるく足をかかえたまま、争点になった四阿（あずまや）をながめていた。
直射熱をさえぎるぶあつい屋根のしたに大きさのちがう箱がとりどりに並べてあり、男たちの使ったものは中央にあって一番大きく、中身があふれてあたりに散っている。
ここで、分子還元するのでなければ、どういうシステムで処理しているのだろう。
箱の表面には二十七種あるという地球系開拓惑星連邦（テラザニア）の公用語が色分けされて書いある。
最上段の第一言語だけはさすがに修得済みなので、好奇心にかられて単語をひいた。
〈無分別〉＝分別のないこと。前後の考えがないこと。思慮のないこと。
「つまり……、馬鹿だと言いたいのか？」
これは、悩む。不要品の処分と罵倒語（ばとうご）に関連が、ないこともないような気もするのだが。
そこで否定型をはずした語幹にあたる。
〈分別〉＝ 一．心が外界を思いはかること。事物の善悪・条理を区別してわきまえること。
「……？？」
ますますわからない。
謎ときに頭をひねっていると何かをひっかくような音が微かに耳に届いた。
視線を転ずれば誰かが道をやってくる。
女、だろう。奇妙にからだを屈めながら、白く塗った細い棒を地面すれすれにさし伸べて、左右に振っている。
砂漠のまちの午睡の樹林にしずかな律音（リズム）。とおりすぎる風にさわりと濃緑の硬い葉が歌う。
杖のさきが小径におちたガラスにあたって、キィンと鳴いた。
「あら」
女は重たげに屈みこむ。
「あら、あらあら、あら」
探るような手のひらがぱたぱたとゴミのころげた地面をなでる。
目が、みえないのだと、気づいて驚いた。
近くまできた女の顔には、あろうことか眼球がない。
まぶたのあるべき位置にはよじれた肉丘の亀裂がのこるのみ。

地球連邦では遺伝子の伝達情報に誤差のある人間も珍しくないのだと聞いてはいたが。厳選された染色体を人工母胎で合成するのが常識の星間連盟では、とても考えられない。
　膝をついて紙片を拾いはじめた女の頭巾のうえに七色の星があった。
　その意味に、一瞬、ひるむ。
　同じ星型がきのうから自分の肩にも縫いつけられている。
　説明された機構のしくみをまともに理解した自信はないが、とにかく相互扶助協定のたぐいの識別証であろうと見当だけはつけている。
　地球圏（テラズ）では絶対的な権威をもつ組織だそうだ。
　〈仲間〉が困っているときに、見捨てるわけにはいかないらしい。
　しかしどうやってと悩むよりは先に、座りこむのに飽きたからだが反応をおこしていた。
　「手伝おうか？」
　まだ使い慣れない第一言語でたずねる。
　耳をこちらに傾げた女はゆっくりと腰を伸ばした。
　左右で歪みの異なる奇形の瞼（まぶた）が異星人には怖かった。
　よくみれば四肢の骨格もどこか微妙に、基本の数値からズレている。
　非論理的というよりは、単純に原始的な嫌悪感が背筋をはいのぼって毛根を刺激した。
　と。いびつな眼窟（がんか）のしたでふっくらした頬が、純白の歯をみせてふわりと笑った。
　「珍しいわね……あなた参加者（ゲーマー）なの？」
　第一公用語はおなじく不慣れなようだ。
　「ああ。でも加入したばかりで、まだよく解ってないんだけどね」
　女のやわらかい笑窪がますます深くなる。
　「だれでも最初はそうよぉ。……見せていただける？」
　「え？　あんた、目……」
　「あら？　だいじょうぶよ。えとね、あなたの〈星〉に、触らせてもらえるかしら？」
　手のひらを立てて探るような動きをみせる。
　とまどったが、腕をつかんでひきよせた。
　小さな指が小さな金属をたどる。
　楕円形に七角の星が浮き彫りになった装置には、表示された色数に応じて点々と奇妙な突起が出る。
　「赤と橙（だいだい）が七つずつに、黄色がふたつ。渡航権があるってことは、よその星から来たの？　この惑星（ほし）には参加者（ゲーマー）は少ないのよ。たいてい知り合いですもの」
　「…あ…？　これ、文字なのか？」
　「そうよーぉ」
　女はますます嬉しげに、
　「盲字も知らないなんて、じゃ、どこかの部族出身ね？　連邦参加制度（ゲーマーズ・システム）に登録なさった気分はどぉかしら？」

「え…、っと…」
じつは非合法に入国した、異世界人です。
とは、言えない。
「個人誓約を守れる自信がないんで困ってる」
「まぁ、なんで？」
「喧嘩っぱやいんだ」
「……あらあら」
芝居がかった大きなためいき。
「〈暴力行為の否定〉は、連邦機構の最大原則よぉ。それじゃ、いつか減点になってもいいように、今のうちにたっぷり稼いでおくことね？」
「…だ、ろうな」
「いいわ。ここの掃除で得点（ポイント）を稼ぐのはあたしの特権なんだけど、今日はとくべつに手伝ってもらおうかしら。でも、全部はやろうとしないでちょぉだいね？　視力がなくとも、あたしにもちゃんと出来るんだから」
「……あたしは何をしたらいいのかな？」
「あら、いや。主語の性別を間違えてるわよぉ」
苦笑する女に、公用語は慣れてないもんでと、レイは高い背のうえの広い肩をすくめた。
風にのって、歌うような呼び声が響く。
「キィー…ルー……ゥ？　キーリ……アー…スっ?」
レイの姓名はキリアス・ヤンセン＝エラと、偽造の証明書には記載されている。
声の主を悟ったとたん思いきり嫌そうに顔をしかめた反応に、気配で女は感づいたらしい。
「お友達が迎えにきたんじゃない？」
「あんなん、ダチじゃねーや」
ぼそっと吐き捨てたのは母国語だったので相手には聞き取れなかったろう。
わざわざ探しに来るからには用事ができたということだ。
〈仕事〉のことなら、無視するわけにもいかない。
「～～～～～～っ。ここだ！」
再度の呼びかけに応えて怒鳴りかえす表情がかなり複雑なものだったのは、聴覚だけに頼る人間にも伝わったのか、どうか。
ここの手伝いならもういいわよと女は笑って手をふった。
直線コースを突っ切ったのか、薮（やぶ）から少女が現れる。
「あーもう、こーんなとこにいてっ！」
怒気をふくんだ第一声は、余人の存在に気づいたとたん、調子をがらりと変えてみる。
「失礼。…こいつってば、なにか悪さをしませんでした？」
「あらぁ、いいえ。ここの得点（ポイント）を半分コしましょぉかって、話していたとこよ」
「ほんとに？」
「なんでそこで疑うんだ？」

「おたくが善行をつむなんて誰が信じるって？」
　数年ぶりにふんだ故郷の地（テラズ）での記念すべき最初の食事を、寝起きの悪い相棒に一方的に喧嘩を売られて台なしにされた恨みは深いらしい。
　はなから喧嘩ごしのふたりは、だまって並んでさえいれば似合いの恋人同士としか見えない、なかなか美形な青年と少女なのだが。
「……っ?」
　しばらく視線を飛ばしあっていたが、さきに理性を取り戻すのはいつものように少女の方で。
「人手（ひとで）が足りないのなら私も参加させて貰いますけれど?」
　相棒が〈必殺愛相（アイソ）笑い〉と評する極上の笑顔にころりと切りかえて、第三者になら礼儀正しく、あくまでもコビを売る。
「そぉねー。でも急ぐんじゃぁ、ないの？　私、もう少しで貴金属階級（メタルクラス）に上がるところなのよね。がんばっちゃおぅかなー」
「ああ。じゃ、代わりに、ごあいさつ点を受けとって下さいね?」
　にこにこにこと、人畜無害どころか、地球の宗教でいう神様とやらの使いのごとき。
「いいのぉ？　あなたの点が減っちゃうわよぉ？」
「ふっふっふ〜」
　こんどのかおは満腹した猫のようだ。
「〈視（み）て〉下さい。これに関しちゃ威張って歩いちゃう」
　ひょいと腕をつかんで自分の星に触らせた。ええっと女は叫ぶ。
「まだ草花級（フラワークラス）だっておかしくない齢なのに、光彩（ライト）どころか、もう貴金属（メタル）なの？」
「語学がちょっと得意だったもんで。公用語ぜんぶ、資格とっちゃいました」
「うそぉ、すごーい……！　偉いっ?」
「どうもー?」
　公用語二十七種どころか、その倍はかるく解するに違いない超越天才児のくせに。
　つくり笑顔でない、はにかんだ表情で、白い歯をみせた。
「おい……急いでたんじゃないのか？」
　レイの機嫌がますます悪くなるのに拍車をかけるつもりなのか少女は片目をすがめ、
「誰のせいで時間がなくなったんだ？」
「おまえだ」
「あのねぇえっ」
　はたからは痴話喧嘩としか聞こえないのだろう。女は笑いをこらえた顔をしている。
　それでも、予定があるのは本当らしく。
　ゴミ捨て場である四阿（あずまや）の一隅の、ちいさな戸棚をあけて公用端末をひきだすと、手早く自分と彼女の記章をさしこんで規定の指令をいれる。
　淡い緋色の金属でできた少女の記章に変化はないが、光画面表示の女のほうには新たに青紫の一線が加わった。

「じゃ……楽しんでくださいね（ラクエリータ）」
「どうもありがとぉ。あなたもね?（エドレノーシュ）」
少女が本気で立ち去りかけるのに違和感をおぼえて、レイはあわてて心話（はな）しかけた。
『おい…、いいのか?　彼女、眼球が無い』
『出来ることを自分でやるのは人間の権利でしょ？　それに…盲目なのは地球圏（テラズ）では別に、悪いことじゃない。音声で話していいんだよ』
御先祖サマが原因な（わるい）んだから変に気をまわすほうが、よっぽど失礼だよと言いさして、でも気をつかってくれてアリガトウと言いなおし、やっと表情をやわらげる。
それではじめて天災少女の低気圧の原因が、自分だけではなかったらしいと、不仲な相棒は遅まきながら感づいたのだった。

……続く……

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　2　』　第一章・惑星《最涯（ワンゼルラン）》　その一

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　2　』　（@ウツこもり～統合失調で断筆期まで）
2007年6月2日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

テラザニアの斎姫連（さいきれん）

土岐 真扉

第一章・惑星《最涯（ワンゼルラン）》　その一

☆

うすい酸素の層にまもられた若い大地の東のはてが銀（しろがね）と黄金（くがね）に染まる。
一日のもっとも動きやすい聖なる時刻をのがすまいと起きだす人々のこえ。
祈りの書物がしらじらと暁光にぬれ、燈火のたすけなしに読めるようになるころ。
娘たちは天をあおぎ、金の初矢が蒼空を焦がすをみる。
うなじから背なへと流した被り布をひきあげ、深くひきさげて。
また、熱く灼ける陽光と、炎暑と乾燥の素朴な暮らしがはじまる。
それをこそ、われら部族は選びとった……と。
つつましく誇りやかに、うたいながらの生が。

☆

ふたりが降りたとき《最涯（さいはて）》市街はちょうど夜明けに位置していた。
出てきたばかりの宙港塔が希薄（きはく）な大気をつらぬいて惑星外へと続く、その銀の高みのなかばまでしか陽光は届いていない。
それでも熱気が起こした旋風（せんぷう）は赤い砂をまきこんで街路をけずる。見本のように酷薄（こくはく）な岩石砂漠は地球系人類（テラザニアン）が自力で生息しうるぎりぎりの限界点だ。
と、いうのに〈赤道直下〉ときいて異世界人（リスタルラーノ）が自分でえらんだ衣装は。
肩もあらわに太股むきだし、ほとんど水着の袖なし短パン、海青色に極楽鳥。服に合わせて染めたとおぼしい真青（まっさお）な髪が衛星軌道をむいている。

めだちたがりでハデ好きの浅慮（せんりょ）な性格まるだしと、となりの人間はさも嫌（いや）そうだ。
しかも地球人（テラザニアン）だとすれば純血の北欧種にしか見えない。
出自をごまかすための偽装手術のおかげだが、肩幅のひろい長身のわりにひょろっと生白い手足をむきだしのまま戸外に立つなど、想像したこともない濃褐色（のうかっしょく）の住民たちが、あきれ驚いて立ちどまる。
「……あ……あつい……」
当人は、たっぷり二分は絶句したあげくにぼそりとつぶやいて。
「だから言ったじゃないか、日中には地球式（せっし）で五十度超（こ）える」
尖（とが）ったこえで刺されたクギは、かなり太いしろものだった。
なにしろ夏でも水は固体であるような極寒惑星（きょっかんわくせい）のレイは出身だ。とりあえず人類の可住地域とされている〈熱帯〉で、表皮を保護する必要があると言われてピンとこなかったのも無理はないのだが。
色素と適応力の欠落した文明人の素肌は、強すぎる直射日光をあびたら五分で火ぶくれだ。
皮膚癌（がん）で死にたいのか！と、あわをくった宙港職員にひきとめられたばかりだ。
それを肩でおしのけて入国管理を強引にくぐり出たのは本人なのだから。
心配するよりさきに通行人の好奇の視線でこちらの顔が火をふきそうだと表情で訴えるつれに、レイはむくれる。
「だって暑いとこってから、地球圏（テラズ）の服わざわざ調べて」
「その恰好（かっこう）は亜熱帯の湿潤地方のやつ。ここは熱帯で、乾燥（かんそう）気候なの」
学術用語で断定する、口調が辛辣（しんらつ）だ。
いけすかない優等生だと前から見ていた相手にとっても、八方美人の九番目の方角に、自分が分類されていると気がついたのはつい最近だ。正確には仲間たちと別れてここへ来る船中で、二人きりになってから突然に、あたりがきつくなった感じだ。
「……そうなのか？」
「何度も説明したと思うんだけど？」
ひとの忠告はすなおに聞こうねぇと容赦もない彼女は、用意よろしく厚地の外套（がいとう）に深い庇（ひさし）の頭布をかぶり、外見からでは性別もわからない焦茶（こげちゃ）のカタマリと化している。
この土地ではそれがふつうで常識なのだと教えられたのは確かだが。「泳鳥（ペンギン）のまる焼き」と、ごくまともな感想をのべたら一度で見捨てられた記憶が……ある。
それでつい、ムキになった。
「はン、簡単じゃんか」
宣言するなり《気波（シ・エス）》をあやつって周辺の分子運動を抑える。
肉眼では感知できない霧状の力場が発生し、ほの青い燐光にゆれる。
たちまち熱量をさげた気波壁（きはへき）のなかの冷涼な空間で腕をくみ、さぁどうだという

顔を本人はしたが、
「ひとめを考えてよね。その服装でも身体に支障がないっていうの私にしか〈視（み）え〉ないんだよ。それに……。滞在予定がどれくらいになるか、わかってる？」
悪意としか解釈できない楽しげな嘲笑（ちょうしょう）をうかべられてしまい、がるると唸（うな）ってしかたなく、商店のならぶ宙港塔へ、くるりと踵（きびす）をかえした。
研究所では最強を誇（ほこ）るレイといえども長時間、続けて使えるワザでないのは認めなくないが事実である。

☆

《気波使（きはつかい）》または《気波術者（サイ・テック）》、連盟語（リスタルラン）では《感働人（エスパッショノン）》。古い地球語では《霊力師（サイキック）》とも、《神》とも《悪魔》とも呼ばれたひとびとの、探索および実態調査が今回の目的だ。地球連邦機構（テラザニアン・オリガ）からの極秘だが正式な依頼と、星間連盟総裁（リスタルラーナ・パス）じきじきの財政支援のもとに始動した企画である。
連盟（リース）側の予算確保の名目は『未解決犯罪における手段の実証および再発防止のための法制化』なのだが。四十周年をむかえる新生の連邦（テラズ）としては差別や抑圧を受けている影の存在の権利を、公認することで保護したいという意向がつよい。
その、膨大（ぼうだい）な範囲におよぶ現地調査は一人でやると、彼女が宣言したのがそもそもの始まりだった。
「参加者（ゲーマー）……つまり自主的に連邦機構の運営に協力すると志願誓約（しがんせいやく）している連邦市民の洗い出しは簡単なんだ。参加者協会（アソーシアン・ネット）の情報網が使えるからね。問題はそれ以外の、いわゆる部族民とか独立人として分類されている、戸籍調査すら嫌（いや）がる人たちで……しかも未確認の《気波使》が発見される確率は、変異（へんい）発生指数から推（お）してこっちのほうが高い」
研究所のほとんどを占める連盟人種（リスタルラーノ）を対象に、天才と評されている地球出身の留学生は故郷の歴史と現況を手際よくまとめて語る。
もうすこし、色気と飾（かざ）りけのある衣装にすれば美少女でも通るのに、などと。
職務に不熱心なレイはよけいなことを考えていて、説明はほとんど聞き流してしまった。

「……ということで、実施（じっし）期間は三地球年。都市部における参加者の抽出（ちゅうしゅつ）と面接はエリーが統括（とうかつ）。地方および辺境の調査は、いちばん事情にくわしい私が単独で行います。情報解析（かいせき）班の編成はソレル博士にお願いします。……以上、なにか質問は？」
「まった、地球圏（テラズ）の辺境って、かなり治安が悪いんだろ。用心棒いらないか？」
成人と子供ばかりの研究所内でただふたり、年齢の近い地球人の少女たちが、そろって三年も留守になるのはおもしろくないのが口をはさんだ原因だった。どうせ仕事もない落ちこぼれの所

員なのだ、厄介払われもかねて物見遊山（ものみゆさん）としゃれこもうというのが、本音でもある。
　いつものように先回りでこちらの意図をよみとって、満面笑顔の
お返事と思いきや、
　「説明……、ちゃんと聞いてた？」
　意外なことに困惑したふうの八方美人
である。
　「もう一度いうけどね、なるべく目立ちたくないわけ。地球本星での最後の大戦の時にどの陣営に属（ぞく）した地域かによって反応は違うんだけど、地球系の文化圏においては、私たちみたいな《気波使い》は、《神》やその部下という解釈で〈聖域〉に隔離（かくり）されるか、同じく《悪魔》かその眷族（けんぞく）だという偏見で追い出されたり、最悪では磔刑（はりつけ）にされたりとか、どちらかだったんだ、つい最近までね。
　こういう技能があると周囲に知れたら最後で、迫害だろうが特別あつかいだろうが、ふつうの人間としての、あたりまえの生活や結婚をするのは、ほとんど不可能になる。だから大抵（たいてい）は自分の〈正体〉を隠して平凡に暮らしていくために、しなくてもいいような苦労をしてるわけ。
　私なんか、それが面倒で連盟（こっち）まで逃げてきちゃったくらいで。
　そういうビクビクしながら生きているところへ、地球人の私が一人で行ってさえ、知らない他所者（よそもの）が何しに来たってだけで不用意にひとの注意を引いて、生活環境を破壊しかねないのに。
　異世界人（リスタルラーノ）で、ましておたくのような……。ねぇ？」
　意味をたっぷり含ませて首をかしげる仕草に、ひとの目を魅（ひ）くことに快感を見いだしているレイの過激（かげき）な服飾をみなれた一同は遠慮なく笑いをもらした。
　「……ったって、ならよけい、危ないだろうが」
　優等生のいつになく攻撃的な論法にかすかな違和感がある。
　「迫害される地域で、暴走癖（へき）のある《気波技師（エスパッショノン）》のあんたが、ひとりで無事に済むのか？」
　力量はあるが細かい作業の苦手な少女はみごとに無表情の笑顔で、
　「それは心配ない。抑制（よくせい）装置の小型化はすでに試作にかかってる」
　怒（おこ）ったな、とレイは思ったが口には出さずにおいた。
　はじめは被験体として参加しながら卓越（たくえつ）した理論構成ですぐに研究職の筆頭（ひっとう）になり上がった天才児は、うっかり自分で気波を飛ばすと実習室ごと破壊する。
　一方で所員として失格のレイは、実用技能の正確さと安定性では師範格（しはんかく）を自称している。
　そのあたりを酌量（しゃくりょう）した人間がまあまあと仲裁にはいった。
　「いいじゃないの、サキ。連れて行っておあげなさいな」
　「エリー、そうは言っても、ことは対象者の人権そのものが懸（か）かってる」

「それは解るけれど、あなたのことだから舌先三寸でまわりを胡麻化すくらい簡単でしょう？」
「…それ…、誉（ほ）めてるか貶（けな）してるか判らないんだけど★」
地球人が埒（らち）もない半畳（はんじょう）合戦をはじめたら議題が中断されるとは、連盟人種（リスタルラーノ）の共通認識だ。
「あら、敬愛している友人を、あたくしが貶（おとし）めたりすると考えるなんて、ひどいと思うのよ」
「寡聞（かぶん）にして尊敬なんてされてるとは存じませんで」
「それは不見識（ふけんしき）というものよ。大体あなたは他人の好意に鈍感（どんかん）すぎるきらいがあるわ」
「古傷えぐるの止（よ）そうよね。それを言うならエリーのほうこそ恋文を読みもしないで反古（ほご）にするのはいくらなんでもやめた方がいいと……」
まんまとハメられて脱線しかかるのを、うすい刃物のようにさえぎる声がある。
「所長決裁とします。レイを護衛として、かならず同行すること」
「えっ！　…でも博士っ…」
「研究者の貴重な頭脳を危険にさらすわけにはいきません」、と。
それまで議長席で沈黙していた所長から、じかに宣告されてしまっては連邦の公費留学生に反論の余地はない。
緑の瞳のエリーはゆるやかな金の巻毛をかきあげて、してやったりと片目をとじた。

☆

出会ったのはこちらのほうが先とはいえ、おなじ惑星の出身で仲もよいエリーは何か知っているのかもしれない。なにか……、自分は知らないことを。
最初にうけた奇妙な印象は出発の準備がすすむにつれ深まる一方だった。
どうやら相手に嫌（きら）われていると気がついた、それはいい。善人面（づら）したマヌケのおひとよしと、いいように罵（ののし）りながら都合よく利用もしてきた当然のむくいである。それで一緒に旅行なぞ、したくはないと断られるなら疑問も不満もない。
わからないのは、それが理由ではないらしいからだった。
嫌うというより避（さ）けているだけでしょうと、すこし年上の金髪美人は余裕で笑う。
聞き出したいことは色々あったが、同道するからには最低限の言語と礼儀作法くらい覚えてもらうと主張する相棒に、ぎりぎりまで睡眠学習槽（そう）にたたきこまれていて時間がなくなった。
そもそも地球圏（テラズ）の文化が複雑で配慮を要するくらいは誰でも承知はしている。
科学万能主義の連盟世界（リスタルラーナ）とはずいぶん感覚も違うだろうが、レイとて持って生まれた《力》のせいで爆発事件をひきおこし、故星の追放処分をうけて研究所へ引き取られたクチだ。

ほかの人間に同じ思いをさせないよう、必要とあれば隠密行動に徹するくらいできるのは、六年ごしのつきあいで向こうも了解しているはずだ。
それを、人目につくという強引な名分で、切り捨てて一人で行こうとしたのは……何故か。
最終的なうちあわせに至って、それは深刻な疑問符となった。
異世界人である自分が入国後も自由に動けるように、人種的特徴を簡単な手術でごまかして地球人になりすますという配慮はわかる。用意された偽造の身分証でいまさら驚くほど相手の常識はずれな多才ぶりを知らないわけでもない。
だが、なぜ……地球生まれの地球人までが、偽名を使って再入国をする必要があるのか。
今度の調査は連邦の正式な依頼によるものだ。公費留学生が一時帰国して研究活動をするのに、不都合があるとは考えられない。
憶測（おくそく）するにも限界を感じたレイがいいかげん煮詰まったあげくに説明を求めたところ、長くなるとか時間がないとかの口実で逃げられつづけて今日まで来ている。
といただすしつこさのあまりに「だから一人で来たかったんだ！」と怒鳴られて以来、二人の仲はいたって険悪なものになっていた。

現地の気候にあわせた服装をという指示を無視して薄着（うすぎ）をしたのも結局はただの抗議行動だ。
宙港塔の基盤部（きばんぶ）に迷路のようにつらなる商店街で合いそうな上着を探しながら、無駄な馬鹿をやったなと暑さによわいレイは内心ためいきをつく。
深緑（ふかみどり）の紋様（もよう）織りに金糸で刺繍（ししゅう）をほどこした、色鮮（あざ）やかだが悪趣味ではないと少女もしぶしぶ承諾する一着をみつけて市場での用事をおえた。
ついでというふうに二度目の朝食をとりに地元料理の店に寄る。
下船のまえに早すぎる軽食はとっていたので食欲などないレイをしりめに、あれこれ地球式の皿をならべた少女は、時間はずれのこの正餐（せいさん）をじつはずいぶん楽しみにしていたらしい。
八年も異邦で暮らしたあとの最初のご馳走（ちそう）である。
食は文化なりという格言も地球にはあるくらいだ。
あいにくと、定時におこなう栄養補給という貧しい認識しかない文明育ちは、店内にほかの客が少ないのを見てとるなり、すでに習慣と化しつつある質問攻勢を再開してしまった。
「〜〜〜〜〜〜また、その話？」
三日も断食したような風情で料理にとりついていた留学生は、星間連盟（リスタルラーナ）や宇宙船内では望むべくもなかった骨つき肉の焼いたのを丈夫な歯でひき裂きながら、もぐもぐと嫌そうに言う。
「またじゃないだろ、まだ何も聞いてないんだぜ、こっちは」
「渡した資料もろくに読まなかったくせに偉そうに……研究所に置いてきちゃって」
「あんな分厚いもん目を通せるか。学術言語は苦手なの知ってんだろ」

「……さては、開いても見なかったわけね……」
「見たよ！　対照表だの模式図だの、こむずかしいのばっかりだったぞ」
「説明文だよ。ひとが折角（せっかく）おたくの母星語に訳しておいたのに」
むっすり呟（つぶや）いて乾燥植物の浸出液（しんしゅつえき）――その色から〈茶〉とか呼ばれるもの――をすする。
「……へ？」
一拍おくれた反応をするレイを、切って煮た野菜に手を伸ばしながら上目使いに睨（ね）めつけて、
「これだもの。なんでこんな不勉強なやつ連れて来なくちゃならないんだか」
「えー……っとぉ……。悪かった、あやまる」
嫌いな相手にさえ発揮される八方美人の博愛的な親切心に、なかば呆（あき）れつつ下手にでる。
「簡単でいいから口頭で、説明しなおしてくれる気は……」
「やだ」
「そう言うなって」
「短くできる話なら最初からそうしてる。私の本名さえ知ってれば、調べれば誰にでも解る事情なんだから、自分で勝手に探せば？」
「本名って、サキ・ラ……」
ぱっしゃんと、派手な音をたてて顔のうえを流れたのは草の実の絞（しぼ）った汁だった。
ひとの生き血のような色と味に閉口してレイが注文したきり手をつけていなかったやつだ。
「～～～～なにすんだっ！」
塩気をふくんだ赤い汁のなごりをとどめたグラスは、少女の器用な指のさきでゆれている。
「その名前、地球圏（テラズ）についたら絶対に、口に出すなって言ったよ」
切りこむような声のひびきは気迫というより緊迫感がある。
「だからっ、なんでだって聞いてんだろっ？」
「……ひきかえして勉強しなおせば？」
邪魔だから帰れと、きっぱり表現されてレイは言葉を失う。
どんなかたちであれ実力行使に訴えるほど相棒が本気で怒るのは長いつきあいで初めてだ。
動転のあまり対処に窮（きゅう）して、原始的な手段にはしる。
がらがっしゃんと半分ほど料理ののこった皿ごと食卓が倒された。
「～～～～～～～～たべものをっ！」
すでに声にもならない悲鳴を地球人はあげる。
「これは連盟（リース）の合成品じゃない。土から採れたものなんだよ。よくも粗末（そまつ）にしたねっ」
なにいってやがる、先に果汁をぶっかけたのはそっちだろうが……。
理不尽なセリフに憤激（ふんげき）しすぎて震（ふる）えのきた異世界人は、あいての頬をひとつ張（は）りとばすなり店から飛び出したのだった。

続きます★

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　3　』　第一章・惑星《最涯（ワンゼルラン）》　その二

『エスパッション・シリーズ　紫昏の闇・1　テラザニアの斎姫連　3　』　（@ウツこもり～統合失調で断筆期まで）
2007年6月2日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

テラザニアの斎姫連（さいきれん）

土岐 真扉（とき・まさと）

第一章・惑星《最涯（ワンゼルラン）》　その二

☆

「……殴ったりして悪かった」
相棒のほおにくっきりのこる指のかたちのアザを認めてしかたなくレイはつぶやいた。半日が経過してなおこの状態ということは、さぞ痛かったにちがいない。
「……なおすぞ」
そう宣言して手をのばす。気波使（きはつかい）にしか視えない蒼光がすぅとひらめいて、傷は癒えた。
「たすかったよ、ありがとう。これで人様を訪問するのはちょっと問題があるものね」
にっこり笑って腕力をふるった当人に礼をいう、少女の神経はレイには不明だ。
「このくらい自分で治せるだろうが。やりかたは教えてやったぞ」
「いやぁ、やっぱり、責任はとっていただかないと？」
「あんたなぁ……★っ」
見せつけるためだけにわざわざ治療はせずにおいたと、言われたほうはがっくり疲れはてた。
こいつには、てめえの美貌の自覚はないのかっ！
毎朝の洗顔のあとで鏡を点検するかどうかも疑わしい無頓着（むとんちゃく）な天才少女は、絶句する面喰いの反応を読み違えたのか底意地の悪い笑顔をうかべて見せて、さっさと歩いていった。
ここは砂漠の宙港都市。その人工緑地（オアシス）のなかである。
「どっちがいい？」
木立に隠れるような半地下にしつらえた石造の休息所で、飲料の缶をふたつ手にして戻ってきた少女は、すぃと流れるような動作ではすむかいに腰をおろして訊ねる。

「どっちたって……これ、なんなんだ？」

（？？？続きのデータが無いっ!!　(T_T)”　）

「“紫昏のライラ”の捜査状況」

『　（メモの断片いくつか）　（5）　』　（@社会人～鬱こもり時期？）
2007年3月31日 連載（2周目・地球統一～ESPA）

「回線70–5275」
と、キルが言った。
「なにが？」と、セラ。
「“紫昏のライラ”の捜査状況」
つまり、警察内部のコンピューターの回線コードである、と。その他にもむろん、署員のだれがしの――
「盗むのくらい、わけないんだろ？」
その手の情報の操作に関して、セラにはしっかり前科がある、のをキルは知っている。
「ちょっと待て。それは非合法行為だって――」
「は！　~~なにをいまさら~~」
と、鼻で笑われてセラは口をつぐむ。
「なーにをいまさら」
他人の認識番号使って偽名を名のるのは、合法なのか？　と、問われてううううとうなるセラ。
「ちゃんと本人の了承は得たもん！」
「連邦の謄本資料を勝手に書きかえたよな？　紫昏のライラの行方、探すんだろ？」
がるるとうなって、セラは端末にとりついた。

連邦の「まじめな」構成員を自称し、非合法だの犯罪行為だのを「原則としては」せっせと否定している彼女が、今回の一連の旅にさいして自分から偽名を使うと言いだし、あえて手を汚して危ない端を渡る理由を、キルは知らない。出会ってからこれまでの4年間、半分はリスタルラーナで、半分はジーストで、同じような旅をしてきたが。いつでも本名で通し、「有名人」であるリスクもメリットも受けとめてきた。

数分と経たずに連邦警察の情報回線へ侵入を果たし、一連の資料をあたまに叩きこんで足跡も消して帰ってきたセラは、ニヤニヤしているキルにあかんべをして見せると、続けて別の回線にとりついた。
そして――今、彼女らは、船上にあってホールドアップを受けている、というわけだ。

『　（下書き）　』　（@中学？）　表面的な「人格者」を装うのは不可能事じゃない。

『　（下書き）　』　（@中学？）

2007年3月15日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)

「――仮に、思想的・人間的に未発達な精神を抱えている“誰か”がいたとして、その“誰か”の知的能力が十分に高くさえあれば、綿密な分析や計算の上に立って、表面的な「人格者」を装うのは不可能事じゃない。現にわたしはそうした人たちを幾人か知っていたし――そのうちの1人、~~本人できえ自分の演技を自覚しえない程完璧に成りおおせていた人は~~とりわけ見事に周囲をあざむき続けていた人は、周囲から冗談で、“ソレル女史2世”なんて呼ばれていたよ……」

――ティリスは何も云わなかった。それから、ややあって、目線を上げた。

「レイは？　さっきから何も言わないみたいだけど……」

「――ああ、レイに関しては意見を言わせようとした所で無駄ですわ、ミズ・ティリー（ティリーさん）」エライジャ（エリー）が口をはさむ。

「ある2つに実害を及ぼす事のない限り、彼女は女史に対しては絶対服従ですわ。ゼネラの倫理観というものはあたくしには理解しかねますけれど、サキの部族の古語にそれに近いものがあったように思います。そう――確か、イッシュキッパンノウンギ……だったかしらね？　サキ？」

サキが彼女の発音を直している間に~~それまで黙りこくっていた~~レイがふいと立って窓際へ移動する。

「然りそのとーり、ってね。『どーとくてきかんじょー』なんてシロモンはあいにくとあたしには何の価値もない」

（「じゃあ『ある2つ』ってなあに」いつ目を覚ましたのかケイがそう質問したが、それは今のこの話題には関係ないわ、とのエリーの声で大人しく黙らされ、ティリスは考え深げな顔でレイの方を盗み見た。）

.

コメント

りす

2007年4月27日2:07

中学時代に使っていたルーズリーフにシャーペン描きで

「ジャーナリスト・ティリーさん♪　きゃいきゃい。」
というコメント付きのティリーさんの、ビジネス？スーツに
ワーキングウーマン風ショルダーバッグ（何故か地球風）の、
グラサンをオデコにのっけてショートカットにした後の半身像

と、

「エリザヴェッタ・アリス・ドン＝レニエータ
　レニエート公女として。
　……いや、この年だと既に女公、かな……」
　というコメント付きの、ドレスアップ姿の胸像イラストあり。

『　　星　火　祭　　– みほしまつりのなつ ー　　』　（@専校？）

『　　星　火　祭　　– みほしまつりのなつ ー　　』　（@専校？）
2007年3月14日 連載（2周目・地球統一〜ESPA） コメント (1)

〇星火祭
×星炎祭

星　　火　　祭

—— みほしまつりのなつ ——

柊実　真紅

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　ながく厄介だった事件もようやく片（カタ）がつき、とたんに気が抜けた——と、いうような時には野郎どものほうが回復が遅い~~らしい~~とみえる。ベッドになついて丸一昼夜、それぞれなりに服装を整えて、起きだしてきたのはまずは女性軍ばかり五人だけだった。
　「あら早いわねレイ、おなかすいたでしょ？」
　あまつさえ人より先に目覚ましをかけたらしい、この船の“主婦”なぞは白いエプロンも清々しく、ひさかたぶりのお手製パンの香りが絶妙のタイミングで胃袋を刺激する。
　たっぷりカップの合成飲料（ティレイカ）やミルクティー、各自の好みでとりわけ式の、肉やらエプやら卵やら……
　「ヒマんなったねー、いきなり」
　休暇の朝一番の会話がこれだった。
　「あたしなんか仕事、辞めちったんだぜ」
　「それはみんな同じよティリス」
　「あたしもー。休学届けがあと半年も残っちゃったのぉぉ」
　「なんか、あんたら、奴らが捕まったのが残念みたいだな」
　片肘ついて手づかみで野菜を食う、レイの機嫌が悪いのはサキがまだ起きてないのを気づかっ

てのことだろう。
「あなたたちが引っぱってくる“事件”なんていうのはね」
エリーが焼きあがったトーストの補給をしながら言う。
「あたくし達、慣れっこになってしまって」
ホットミルクのおかわり。
「あってもなくても今更のことなのだわ」
〜〜〜〜〜〜〜〜〜。
「そーゆー人間を護る~~側の~~身にもなってくれ……」
がっくりと、疲れたようなポーズを装ってみっつ目のパセリの~~山~~束にとりかかる。
肉類に手が出せないというのは、やはり、まだ相当にからだの調子が悪い~~ということな~~のだろう。レイは野性の獣とおんなじで、薬はとらずに植物で病気を治す。
一歩、間違えば生きてここにはいなかったはずの彼女だ。
そんなことは誰もがよく承知していたけれど、~~たかが、なのである。~~いちいち感慨に浸っていたらばこの航宙船（ふね）~~の生活~~では身がもたない。ましてや全員が、常時命を狙われていたのだ。
数ヶ月間もの半人質状態から、ある日突然解放されて、事件究明のために走りまわる必要も当座はなくなったとすれば――
茫然自失の虚脱感。
すぐには平穏な暮らしに戻れやしないのが、ひとの情動の常（つね）ではあった。
「う〜〜〜ん。ヒマ、だあぁぁっ！」
フォークを天につきあげて自己主張する、その背後で、
「労働中毒（ワーカホリック）。」
ひとことぼそりと地に蹴落としたのは、毎度おなじみ主人公なのだった。
「サキ！」
「あ、戦闘~~（トラブル）~~嗜好症とも言うなァ。……傭兵部隊にでも入ってみる、ティリーさん？」
「サキったらどこへ行くつもりなの?!」
エリーが叫んだ。
普段着に、大きめのショルダーひとつ。
昨夜命を落としかけたナンバー2、それでなくとも一番疲労していた彼女の、見れば確かにいつもの“旅仕度”ではあったのだったが……
「ちょっとね。地球に帰ってくるよ」
こともなげに言いおいて立ったまま、ミルクティーを飲みほした。
「地球（テラズ）へ!?」
「うん。部族のお祭りがあってさ」
と、いうからには極東草原だろう。
民族自治区は同時に、広大な自然公園でもある。

「五分待ってな」
レイが素早く戸口に向かった。
「きゃあん、三十分。お願いいいっ」
ケイが叫んで走りだせば、ヘレナもティリスも、食べかけを呑みくだして慌てて自室に戻る。
「えーっとっ」
五分、程度ならともかく、そろそろ星間便の時間がと、うろたえる長身の少女の前にエリザヴェッタがお盆（トレイ）をさしだした。
「あ、食事はいら……」
「一時間、待っててくださるわよねぇ」
にっこりと、大輪の~~蘭~~~~水芭蕉~~白百合にも似て、サキは渋々とセリフの続きを飲みこんだのだった。

とどのつまり小型艇ごと瞬動（テレポート）をかけてしまえば宙港までなど所用0分である。こっちはサキとレイという二大エスパッショノンをかかえているのだ、恐いものはない。
「あんたたちって便利だったんだねェ」
「どーゆー意味だ……」
「遅刻防止用近道。」
短い青髪の頭をかかえる。いまひとつ新来のティリスに対する驚異といおうか苦手感覚が抜けきっていないレイである。超能力（エスパッション）というものの実在を知ってまるで動じない普通人というのも、神経回路が並ではない。ヘレナはもっと、知らされた当初は困惑していたものだが。
「まあまあ」
そのヘレナがティリスをひきずって行き、疲れきっているレイはエリーがせきたてた。
実のところ、おちょくって遊ばれているのだとは、気づいていないのは本人だけである。
IDカードで検疫と出国手続きと。
地球圏まで十八時間の船旅はいつもの通りなにごともなく過ぎた。

~~「一般船室にしましょう。その方が目立たないわ」~~
~~言ったエリーのセリフはもちろん、逆に、とか、かえって、とかいう意味だ。VIPはVIPの顔を知る。休暇の間中またいつかのように、記者だの求婚者（やじうま）だのについてまわられたのではたまらない。~~
~~彼らはそもそも、とある著名な科学者のもとに超越能力者の研究という名目で集められたスタッフ達だった。むろん、世間に対してはそんな能力が現実に存在する、実在はおろか、博士の研究所自体が極秘にされている。~~
~~いずれ、もっとも着実な方法で、社会への公表と市民権の獲得を、というのが、全国の隠れエスパッション達を探し出しては秘かに連絡を保っている、特にサキの、目標だったのだが　と~~

~~まれ、科学者の秘密、なぞというものは裏街道のいらぬ誤解をうける。~~
~~スパイやら特殊部隊やら、降りかかる火の粉を払っているうちに~~

~~さあらさら……~~

~~古代の謡（うたい）のひびきのとうりに草原のうえを風が吹きぬける。~~

~~さあらさら……~~
~~むかし　むかしのものがたり……~~

~~「広いわねぇぇ」~~
~~だれかの呟やきに、舞のかたちをとりかけたサキの指がとまった。~~
~~「怖い？」~~
~~「ケイは宇宙船生まれだもんな」~~
~~「大丈夫よ……でも」~~
~~「こうして見ると、つくづく水の豊かな星だねぇ」~~
~~「本当にこんな所があるんだねぇ」~~

　リスタルラーナ星間連盟首都惑星から地球まで、何万スランという距離も、いまでは片道わずか十八時間。船旅はいつもの通りなにごともなく過ぎて、ところが、そこから先がおなじくらい長かったのだ。
　極東草原地区に一番近く、隣接して建てられているシソカ市まで民間航空機で六時間。そこで一泊して、出身者のサキはともかく、他都市の人間やら、レイ、ケイ、ティリスといったまったくの異星人達が民族自治区に立ち入る許可をとりつけるために、半日。
　（結局のところサキの“顔”が通用したけれど――これは、実際、異例のことなのだ）
　磁性列車とエアローバーを乗りついで、目的地のサキの生家にたどりついたのは、さらに次の日の午前になっていた。
　「秘境～（田舎）」
　「驚異の世界っ」
　「まだ本当にこんなところがあるのねぇ……」
　等々。
　機械と文明にかこまれて育った四人娘たちは行路のあいだじゅうきゃあきゃあと騒いでいたが。
　海港都市シソカから長い長い傾斜地をよじのぼり、極東~~の、草の~~高原のはじまって数キロのところに、サキの生家は建っていた。
　白い、小さな館（やかた）である。

見渡すかぎりの草の原、そのただなかに、塀も門もなくすらりと緑のなみに洗われている。
「マハール廟のようだわ」
すでに失なわれて久しい遺跡の名を、写真で思いだしてエリーが呟いた。
「似たようなものかもね。いまは母さまが眠っているし」
「“灰色の貴婦人”が？」
~~「ここは、部族最後の祭祀のあった土地なんだ」~~
――地球現代史の幕あけとなった、その事件を知らない者はないだろう。かつてここは二度にわたって世界を動かす舞台になった。いずれも主演は一人の女性――サエム・ラン＝アークタス、あるいは蘭家の冴夢と呼ばれる、伝説の最後の巫女王である。
~~「ここは、部族最後の祭祀のあった地なんだ。普通はもっと御山（みやま）にちかい辺りでやるんだけどね」~~
~~「で、その御山とやらまではどうやって行くんだ？」~~

さあら　さら
さあら　さら
むかし　むかしの　ものがたり
死ぞ過（か）し往きて　還りこず
ただひとなみの　白き骨
うたうはされど　恋人か
木々の梢えの枯れわたる
鳴き　泣きゆきし　神鳥の
ひびきの明日こと地につかん

――人の世の知らぬげに
草原はただ　風の楽土――

エリー、ケイ、ティリス、ヘレナ、レイ

ここでの生活は身がもたない

たけたかい草の荒原は夏。

生女神、巫女王、斎姫、祭司

.

コメント

りす

2007年4月27日1:14

……久しぶりに、ミョウ～な検索が来てました☆　(^^;)
……このキーワードで、どうして「らでぃっしゅぼーや」
が、ひっかかるんだ……？？　変だぞOCN！　(^◇^;)？
＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

[星　発見　地球　0～40　水　大気　惑星　移民] の検索結果です。（ 599件中 1～10件を表示 ）

＜らでぃっしゅぼーや＞美味しく食生活を改善！有機野菜＆無添加食品の宅配サービス
国産のミネラル豊富な水など、安心・体にうれしい食材が4000種！こだわりの旬野菜＆無添加食品を自宅までお届け。資料請求の方に『濃い野菜セット』プレゼント！
http://www.radishbo-ya.co.jp/

キャンペーン実施中！美味しい天然アルカリ温泉水のミネラルウォーター「財賓温泉」
割引特別価格でとってもお得！九州・鹿児島、桜島のエネルギーをたっぷりと蓄え、天然ミネラルが豊富！超軟水でとてもまろやか、新しいタイプの飲む温泉水。

http://www.zaiho-onsen.com/

▼ウェブ検索結果　（599件中1～10件を表示）
【宇宙】“生命存在”の可能性！地球に最も似た惑星を発見…表面温度0潤オ40 ...

地球に最も似た惑星を発見…表面温度0潤オ40℃、表面重力1.6G、地球から20.5光年★2.
1 ：どろろ丸φ★ ：2007/04/25(水) 15:29:42 ... 水) 15:55:39 ID:LNA/2DvcO: ウリの
民族はその惑星からの移民である資料が「発見」されたニダ！ だからウリの星ニダ！ ...
http://news22.2ch.net/test/read.cgi/newsplus/1177482582

【宇宙】地球に最も似た惑星発見！“生命存在”の可能性も…仏＆スイスなどの研究チーム
が発表. 1 ：どろろ丸φ★

ワシントン24日共同】太陽系の外でこれまでに見つかった惑星の中で最も地球に似た 惑星を発見
した ...
http://news22.2ch.net/test/read.cgi/newsplus/1177472410/...

【宇宙】“生命存在”の可能性！地球に最も似た惑星を発見…表面温度0潤オ40 ...
地球に最も似た惑星を発見…表面温度0潤オ40℃、表面重力1.6G、地球から20.5光年★2.

チリのLa Silla ... 理論上、「アース」は大気を有していなければならないが、大気の存在も観測で
は未だ明らか ...
http://oo.2ch2.net/read/news22.2ch.net/newsplus/11774825...

地球科学@2ch掲示板
恒星と惑星の距離は、地球と太陽間の14分 の1程度だが、恒星の大きさが太陽よりも小さく、光も
微弱な「赤色わい星」 のため、惑星の表面温度は、液体の水が存在できるセ氏0潤オ40度にとど
まる という。ただ、大気の有無や組成などは不明だ。 ...
http://science6.2ch.net/earth/ - 109k - 2007年4月25日 -

アルファ・ケンタウリ
＞?-20等級の星は、明るいけど暖かさは無い。 惑星自体の大気によって、暖かさは変わることは
あり得ますが –20等級ですと、17のレスにあるように、現・ ...
35 ：SID MEIER：03/01/12 09:03: 現・地球では、極地方の酸素の豊富な水が極地方で沈降し ...
http://science6.2ch.net/test/read.cgi/sky/1042013333/-10...

Mars＆Jupiter 人間が住める惑星の存在、そしてフローリヒの交響曲

地球によく似た環境の惑星を初めて発見したことを 25日に発表したということである。13日の公転周期で回っているこの惑星の ... 表面温度も摂氏0潤オ40度と推定され、 液体の水が存在できる条件である。 大気の有無や組成などは不明のようだが、 地球と ...
http://blog.goo.ne.jp/okubo07haberfeldtreiben/e/9937c922...

りす・てらす・星圏史略 : BLOG
惑星が大きいので引き止めておく気体の量が地球よりも多く、大気圏は厚く、大気の底である地表の気圧は高くなる。 ... ようもなくて移民船を一隻づつ無計画に送り出すだけで、他の星でも次第にそうなって行ったが、相互の連絡星は非常にき薄だった。 ...
http://diarynote.jp/user/76519/

伝説巨神イデオン - goo Wikipedia記事検索
8 伝説巨神イデオン - Wikipedia
安息を求めソロ・シップは地球人側の移民星に逃げ込むが、バッフ・クランは執拗な追跡の手を休めない。道中に様々な人間模様が ... 惑星表面を覆っている水は比重がかなり高いらしく、人間が難なく浮かぶ。大気は人類、バッフ・クランともに呼吸可能。 ...
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%9D%E8%AA%AC%E5%B7%A8...

地球と宇宙の画像 200602
また、次回の今日の真相画像は、惑星地球での未確認飛行物体墜落の元祖・本家であり星の恋人たちの街でもあるアメリカのニューメキシコ州ロズウェル市 ... 磁場が遮蔽を提供しなければ、地球の超高層大気は、宇宙で太陽風の影響を受けて蒸発します。
http://cosmos.blog2.fc2.com/blog-date-200602.html

Atlantis and Disaster of Earth
ベリコフスキ–理論によると紀元前15世紀の中頃、地球の公転軌道が原始惑星（金星）のチリとガスの尾の外側の帯に入った、細かくて赤いチリは大気に充満し、大陸と海を血の色に染めた、地球の人間は絶望しながら地面を掘って地下水を捜した、地下水は ...
http://www.osk.3web.ne.jp/~asterope/atlantis.html -

女装の美形か男装の麗人か、区別がつかないから、レイは困る。

『　（設定）　』　（@高校？）

2007年3月12日 連載（2周目・地球統一～ESPA） コメント (1)

　女装の美形か男装の麗人か、区別がつかないから、レイは困る。
　大抵の場合は、素直（？）に男に見える。実のところ染色体は、
　XX（ダブルエックス）で、ある。（!!）
　並の男性より高いんじゃないかという身長、どんと低いハスキーボイス、ざりざりに刈りこんじゃった感じの短かい青い髪、色気のかけらもない金色眼。
　唇は薄いし胸も腰も皆無だし、これで男と思うな、って方が理不尽といおうものだが、それにも増して――どうも、本人が、自分を女とは考えていないらしいフシがある。

（※シャーペン描きにサインペンで髪だけ彩色した上半身イラストあり）

.

コメント

りす

2007年4月22日1:52

（裏面が授業用のノートである……☆☆）
（中学？高校？　専門学校か、これ？？）
＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

　けにてんてんっ！

1. わたしは彼女が他人の悪口を言っているのを聞いたことがない。
   I’ve never heard her speak ill others.

2. わたしは自分の部屋に男が入って行くのを見ました。

I saw a man into my room.

3. もし、わたしに、時間がたっぷりあったら、レポート作成を
手伝えるでしょうに。
If I had enough time I could help you finish the
report.

――――――――――――――――――――――――

1音節
good → better → best (bigger)
bad → wors → worst
far → farther → farthest
much → more → most
little → lear → least

2音節
happy → happyer → happiest
lovely → lovelier → loveliest
※　これ以外のものは much，more.

Audrey is the taller of the tow sisters.

B is much / a lot taller than A.
C is little / a bit taller than B.

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

……ま、まずい……★
今、こんなテスト受けたら、一個も正答できないかも……★

｜｜｜｜｜｜(^◇^;)｜｜｜｜｜｜　　＜英検2級はどーしたっ??

リステラス星圏史略
古資料ファイル
７－６－１

『 テラザニアの斎姫連 』

http://p.booklog.jp/book/112692

著者：霧樹里守 is 土岐真扉
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/112692

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト